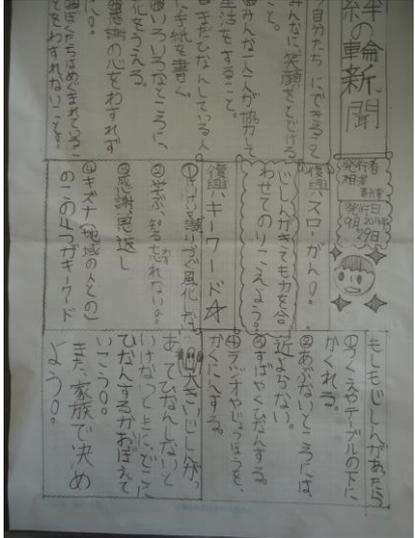
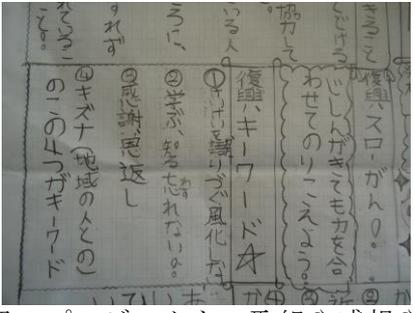


学校名 [南光台東小学校] 氏名 [斎藤 栄子] [099] 学校 [4・5・6] 年版 単元名 [東日本大震災発生] P4~7 教科・領域名 [学級活動] [時間 60分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災時の様子を知る。 これから自分たちの生活にどんなことが大切かを考える。 学級で取り組めることを考え、実行してする気持ちを育てる。 <p>1 東日本大震災のとき、どんなことがあったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震、避難所などの様子の DVD を見せる。 防災副読本の写真を見せて、南光台東地区の様子や仙台市全体の様子を教える。 <p>3月11日のことでどんなことを覚えていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園のお別れ会だった。 靴箱の靴がみんな外に落ちていた。 お母さんが迎えに来てくれて安心した。 <p>2 写真を見て感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ仙台でも被害の大きさに違いがある。 体育館で一緒に勉強するのは大変そう。 みんな助け合いながら頑張っているんだ。 地震を経験していないから気持ちは分からないけれど、かわいそうだ。 <p>3 「復興プロジェクト」について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 鶴を折ること。 「希望のみち」を歌うこと。 <p>4 4年2組の復興プロジェクトを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級目標を生かす 「えがお！前にすすめ！こころひとつに4の2」から、「えがお、前にすすめプロジェクト」と名付け、活動していくことを決めた。 ○ 学級新聞作り ○ 給食全部食べよう。 ○ 花を植える。 ○ 復興に関する文字を書き、教室にはる。 	<p>「復興プロジェクト」という言葉が4年生の児童には身近でない。言葉として聞いていても実際にどんなことをするのか、しているのか明確ではない。学級の中での「復興プロジェクト」を考えさせ、みんなで実行することが大切なことを教えたい。</p>  <p>持ち回りで書くことになった学級新聞。学級の取組やみんなで頑張ることなどお知らせします。</p>  <p>学級のプロジェクトの取組や感想や家の人の声などをのせる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵や手紙を書いて励ます。 ○ 近所の人と仲良くする。 ○ 学級のみinnで協力して生活する。 ○ 自分たちで身を守る勉強をする。 ○ みんなの中に「希望」を持つ活動をする。 <p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからどんな災害に遭うか分からない。どんな力を付けて備えることが大切なのだろう。 ○ 自分で身を守る方法。 ○ 自分自身のことをしっかりできるようになる力。 ○ 他の人も考えられる。 ○ 助け合える。 ○ みんなと自分 <p>学級目標「笑顔、前に進め、心ひとつに」と一緒に小さな復興活動ができれば良いと思っている。日常生活で大切なことが、いざというときに役立つことを児童に伝えたい。</p>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「復興プロジェクト」をしっかりと意識させることが大切だと感じた。どんな考えでどんな活動をしているのか。自分たちができる活動は何かなど、高学年の準備をしている4年生に、「自分たちの考え」を大切にさせ、行動できる児童を育てたい。 ・ 震災について知っていることを伝えよう。4年生の児童は東日本大震災のときは幼稚園の年長。記憶が様々である。そこで、無理のない範囲で静かに思い出し、あの日起こった出来事を知らせることが大切である。配慮を忘れずに行う。 ・ 広く物事を考えさせることも大切であるが、小さな社会でできることに取り組ませることが重要である。 ・ 今日のプロジェクトというコーナーができて各係などが「みんなで昼休みに外でドッチボールします」などと呼びかけて活動している。普段の係活動と行っていることは変わらない。しかし、地震を忘れないとか防災について学ぶとか少し考えを入れるだけで、いつでも防災についての意識ができる。 ・ 震災で家族と離れ離れになったおばあさんに葉書や絵を送って応援するプロジェクトも予定されている。
---	--

主な学習活動（・実際の児童の反応）	指導の実際
<p>学校名 [柳生小学校] 氏名 [中島 崇史]</p> <p>[小] 学校 [4・5・6] 年版 単元名 [希望の詩～「ない」～] P 10～11</p> <p>教科・領域名 [道徳] [時間 45分]</p> <p>1 合唱「希望の詩 ～ない～」を聴き、感じたことをワークシートに書く。</p> <div data-bbox="165 497 775 539" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>この曲を聴いて、どんなことを感じましたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暗い、悲しい感じがする。 ・ 後半は明るい感じがする。 ・ 震災に関わりがあるのかな。 <p>2 資料「①段ボールに書かれた詩」を読む。（写真）</p> <p>3 詩の感想を発表する。</p> <p>4 詩を書いた時の夏希さんの思いを考え、ワークシートに書く。</p> <div data-bbox="165 882 833 1016" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>夏希さんは、震災後の町の様子を見た直後に、支援物資の入っていた段ボールに詩を書きました。このとき、夏希さんはどんな思いで詩を書いたのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の姿がもう戻らない悲しさ。 ・ 前と同じ景色には戻らないが、希望を持っていこう。 ・ 被害にあった人たちを励ましたい。 <p>5 資料「②りんごかわいや音楽会～希望の詩（うた）発表会～」を読む。</p> <div data-bbox="165 1267 833 1420" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>この詩は、読んだ人が他の人に伝え、またラジオやテレビで放送されるなど広く紹介されています。この詩のどんなところが読んだ人の心を動かすのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「必ずいいものが帰ってくるだろう」に励まされた。 ・ 震災でなくしたものをまた取り戻したいという願いが人々の心を動かした。 <p>6 教師の話を書く。</p> <p>7 この時間の感想を書く。</p> <div data-bbox="165 1704 817 1939" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>あなたたちがこの道徳の授業で感じたことを書きましょう。そして、その感想は、みなさんに「希望の詩 ～ない～」を教えてくださいました、りんごラジオの高橋厚さんに必ず伝えます。思いを込めて書きましょう。</p> </div>	<p>○ 授業を考える上で、どうしてもこの題材に関わった方と話をしたいと思い、実際に「りんごラジオ」に行ってみた。その際、このラジオ局の局長からこの詩についての詳しいお話を聞くことができた。また、局長が「授業で使うなら。」ということで、この詩に曲を付けた合唱のCDをくださったので、授業の冒頭で活用させていただくことにした。</p> <p>○ 学習形態は一斉で行った。合唱→詩→副読本の流れで進めることで、前半は夏希さんや山元町の方々の悲しさ、空しさを、後半は「希望を持って」や「前向きに生きよう」といった気持ちを感じさせるように考えた。</p> <p>○ 「教師の話」では、この詩に曲がつけられるまでについてや、りんごラジオがどうして始まったのか、震災当時山元町の方々はどのような状況で、どのような気持ちだったのか、ということについて話した。</p> <p>○ 授業のまとめにはこの時間の感想を書かせた。その際、「りんごラジオの局長にも伝える。」と話し、意欲的に感じたことを書けるように声がけした。児童が書いた内容の一部は以下の通りである。</p> <div data-bbox="874 1509 1430 1939" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私も自分の力でみんなを元気にできるようにになりたい。 ・ 震災を知らない人たちにもこの詩のことを知ってほしいと思った。 ・ この詩のことを知って、この詩を聴いて、今日の前にいる人をもっと大切にしようと思った。 ・ この詩を聴いて、山元町の自然を見に行きたいと思った。 </div>

道徳ワークシート（ 月 日 校時）

年 組 番 名前 _____

- 1 合唱を聴いて，感じたことを書こう。

- 2 支援物資の入っていた段ボールに詩を書いたとき，夏希さんはどんな思いで詩を書いたのでしょうか。

- 3 この詩は，ラジオやテレビで広く紹介されています。どんなところが読んだ人の心を動かすのでしょうか。



- 4 今日の道徳の学習で感じたこと・考えたことを書きましょう。（いくつ書いてもいいです。）



学校名 [岡田小学校]	氏名 [教育指導課 田原 和裕 主任指導主事]
[小] 学校 [4・5・6]	年版 単元名 [地震のメカニズムを知ろう] P20～21
教科・領域名 [理科] [時間 45分]	

主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
-------------------	-------

- 【ねらい】
- 東北地方太平洋沖地震と兵庫県南部地震のメカニズムの違いを知り、どちらも恐ろしいことを知る。
 - 仙台にも活断層があることを知り、それに対して備えが必要であることを知る。
 - 仙台と神戸の場所を地図で確かめる。
 - 範読を聞く。
 - P21 ①地震の多い国「日本」
 - P21 ②地震が起きるわけ

【児童に伝えたこと】
平成23年に起きた東北地方太平洋沖地震、東日本大震災は、プレート境界型の地震で、長い揺れがあり、最大震度7、マグニチュード9.0だった。

- (震度については省略)
- マグニチュードの意味を知る。

【児童に伝えたこと】
マグニチュードとは、地震の規模(エネルギーの大きさ)を表す単位のこと。マグニチュードが1増えると、エネルギーが約32倍になる。マグニチュードが2増えると、エネルギーは約1000倍になる。

- 神戸の地震と宮城内陸地震の様子を資料から知る。

【児童に伝えたこと】

- ◆神戸の地震
平成7年兵庫県南部地震／阪神・淡路大震災／揺れたのは十数秒／最大震度7／マグニチュード7.3／**内陸断層型地震**／建物の下敷きになって、火事で多くの方が亡くなった。
- ◆宮城内陸地震
平成20年6月／死亡・不明23名／栗駒山周辺の山がくずれた／長町・利府断層等が動く**内陸断層型地震**に備えることも大切
 - ・家の中のものが落ちたり倒れたりしないように。
 - ・物が落ちてきたり、倒れてきたりするところに寝ない。

- 【準備物】・パワーポイント・パソコン
・大型テレビ・副読本・日本地図



【児童の感想から】
ぼくたちが体験した東日本大震災は、プレートとプレートの中で起きた地震だそうです。でも、阪神淡路大震災は、断層がずれて起きたそうです。断層で起きる地震は、あまり知らなかったし、急に大きな揺れがおそってくるので、(こわいなあ)と思いました。震災当時の写真と今の神戸の写真を見せてもらいました。震災当時は、港の大型クレーンが倒れていたり、市役所の5階がつぶれていたり、ビルが倒れていたり、とてもひどい被害でした。でも今は、震災が起きたとは思えないくらい建物が建っていました。また、夜は港まで明るくて、にぎやかな町でした。今回、この授業を受けて、神戸はとてきれいで明るい町に復興したことが分かったので、(宮城も神戸ぐらい復興してほしいなあ)と思いました。

学校名 [古城小学校] 氏名 [市川 孝仁] [小] 学校 [4・5・6] 年版 単元名 [地震のメカニズムを知ろう] P. 20～21 教科・領域名 [理科] [時間 45分]	
【ねらい】地震の発生するメカニズム（プレート間地震と内陸断層型地震）について知り、日本付近に存在するプレートや身近な地域の活断層を確認して、地震への備えを考える。	
主な学習活動 ・ 実際に行った活動	指導の実際 ・ 児童の反応
1 なぜ地震が起こるのか、自分の知っていることや予想を書く。 ・ワークシートに知っていることや予想を書く。	<ワークシート①> ・ プレート同士がぶつかり合い、一つのプレートが下に入って限界になったとき、はねかえるから。 ・ 世界中にプレートがあって、常に動いているから。
2 地球上で地震が発生している場所と震度を確認し、地震が起こりやすい場所を調べる。 ・映像資料を見て、①プレート境界線に地震が多いこと、②毎日、世界中で地震が起こっていることを調べる。(参考 2011年の地震発生回数 M4.5以上 9527回、M6.0以上 205回)	<映像資料> 「世界の地震 分布図 World earthquakes map」 www.youtube.com/watch?v=oQ-fq2xNXdU ※8分36秒の動画だが、初めの3分間だけ視聴する。映像資料は、2010年1月からの地震(M4.5以上)の記録だが、2011年3月まで進まないよう配慮する。
3 プレートテクトニクスについて、映像資料を見て知る。 ・映像資料を見て、プレートの動きと地震の発生について知る。	<映像資料> 「じおじい・もじおの地球はワンダフル」 https://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=8fOnN2UsJLc
4 日本付近に存在するプレートについての地図を着色し、我が国の国土がプレートの境界付近にあることや、地震が多い国であることを実感する。 ・ワークシートのプレート地図を着色し、気づいたことや分かったことを書く。	<ワークシート②> ・ 日本には、たくさんプレートがあることが分かった。 ・ 日本は4つのプレートの上にあるから、いろいろなところで地震が起こる。だから、日本は地震が多い国だと言われているんだと思う。 ・ 北アメリカプレート、フィリピン海プレート、ユーラシアプレートを合わせると日本が入る。プレートの境が東京の近くにある。
5 プレート間地震だけでなく、断層のずれによる地震もあることを知り、身近な地域の活断層を調べる。 ・断層のずれによる地震もあることを知り、ワークシートで自分たちが生活している地域に 長町・利府断層があることを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <教師の話> この地球上から地震をなくすことはできません。しかし、地震の被害を少しでも小さくするために、私たち人間に準備できることはたくさんあります。地震に関する研究や緊急地震速報の活用など、世界中の人々が協力して、様々な研究・開発が行われているのも、その一つです。では、みなさん小学生に、できることはないのでしょうか。いや、たくさんあります。地震に備えることは、子供も大人も、みんなにとって大切なことなんです。さあ、みなさんも、自分にできる「地震への備え」を考えてみましょう。そして、今日ここに書いたことをおうちの人と話してみたり、実際に準備したりしましょう。 </div>
6 地震をなくすことはできないが、被害を少なくするための備えはできることを知り、今の自分にできる地震への備えを考える。 ・教師の話を聞き、自分にできる地震への備えを考えてワークシートに記入し、ペアで伝え合う。	※児童の意見は別紙参照のこと

「新防災教育副読本を活用した指導事例」

学校名 [作並小学校] 指導者 [庄司 祐太]
 [小] 学校 [4・5・6] 年版 単元名「災害時の情報手段」 P 26～27
 教科・領域名 [社会] [時間 45分]

主な学習活動

1 災害時の情報手段について，東日本大震災の状況をふり返る。

① 新防災副読本「災害時の情報手段」の前文と①「東日本大震災の発生直後に人々が求めた情報」を音読する。

- ・ 停電になる。
- ・ 携帯電話が使えない。
- ・ メールもできない。

② 情報ネットワークシステムの限界を理解する。

発問 1

家族がいない時，自分が避難場所に無事避難していることをどうやって伝えれば良いでしょう。

- メモをおく。
- 周りの人に伝えてもらう。
- 避難場所に張り紙を貼る。

発問 2

気付かれなかったらどうしますか。

- そのまま待っている。
- 知っている人に聞く。
- 家に行ってみる。

2 震災時の必要な情報の入手方法について知る。

① 新防災副読本「避難生活と情報の入手」と「災害用伝言ダイヤル（171）」を音読する。

- ・ ラジオの重要性
- ・ 災害用伝言ダイヤルを使うこと。

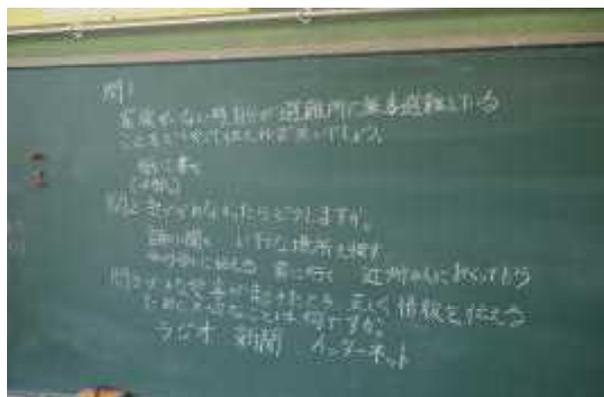
指導の実際



- ・ 防災副読本の「東日本大震災の発生直後に人々が求めた情報」の理解とともに，課題を捉えやすくするために，情報が全て途絶えた状況についての事例を知らせたことから，大災害の時は，あらゆる情報が使えなくなったことを理解させることができた。

[児童の反応]

- 家に手紙を残す。
- 居場所を紙に書いておく。
- 知り合いの人に伝えてもらう。
- 家族がいそうな場所を探す。
- 大人の人に家族を見ていないか聞く。
- 近所の人に家に送ってもらう。
- 他の家の家族に伝言を伝えてもらう。



[板書の様子]

3 震災時の情報伝達方法について考え、話し合う。

発問 3

大きな災害が起きたとき、正しく情報を伝えるために大切なことは何ですか。

- ① 自分の考えを学習シートに書く。
- ② ペアで話し合う。
- ③ 全員で意見を出し、話し合う。
 - ラジオを身近なところに置く。
 - 災害時伝言ダイヤルの使い方を確かめておく。
 - 避難する場所や連絡の仕方についての家族と話し合っておく。
 - 近所や地域の人と連絡方法について話し合っておく。

4 本時の感想を書く。

3年 防災の授業学習シート

災害時の情報手段について考えよう

名前 _____

問1 家族がいない時、自分が避難場所に無事避難していることをどうやって伝えれば良いでしょうか。

問2 気付かれなかったらどうしますか。

問3 大きな災害が起きたとき、正しく情報を伝えるために大切なことは何ですか。

感想

[防災学習シート]

- ・ 防災副読本の内容から、ラジオが重要であることや災害用伝言ダイヤルの効果を理解させることができた。



[自分の考えを書く]



[ペアで話し合う]



[全体で話し合う]

[児童の感想]

- ・ ラジオを身近に置く。
- ・ 災害用伝言ダイヤルを使う。
- ・ 人からの情報が大切なので、ついても助け合うようにしたい。
- ・ もしも、災害が起きたとき、どうしたら家族の無事を知ることができるか学んだ。

学校名 [仙台市立桜丘小学校]

氏名 [松下 武士]

[小] 学校 [4・5・6] 年版

単元名 [災害が起きたら] P30~31

教科・領域名 [学校行事] [時間 45分]

主な学習活動（実際に行った活動）

指導の実際

1. 大きな災害が起こる前に何ができるか考えましょう。

2. 防災とは何か、改めて確認しましょう。

（発問）防災訓練は必要ですか？

- ・ 災害を防ぐことは「命を守る訓練」
- ・ 津波想定 of 訓練の意味

仙台市の被災地を訪ねてみよう。

3. 中野小学校が受けた被害の様子を知る。

- ・ 震災前の蒲生干潟や中野小学区の地理的環境について
- ・ 震災後の様子
- ・ いろいろな形で励ましてくれた人の紹介
- ・ 中野栄小学校との第1回交流会の紹介

4. 自分の身を守る方法を考える。

- ・ 大津波警報の意味
- ・ 確かな情報，避難，励まし合うこと

5. 今，できる準備をする。

- ・ いろいろな通信手段を知る。
- ・ 災害用伝言ダイヤル171の使い方

6. まとめ

- ・ 伝言ダイヤルなどの情報手段を使う時を想定して、「いざというときに伝えること」をあらかじめ考えておく。

（児童の反応）

- ・ 訓練の意味について改めて考えていた。
- ・ 災害用伝言ダイヤル171の使い方を理解し，体験利用できる日を確認していた。

- ・ 「児童・生徒による被災地訪問活動支援」（仙台市PTA協議会，10月23日）の事前学習として，地域防災訓練（9月21日）の1校時に学年で行った。



- ・ 桜丘中学校との防災訓練に参加する心構えとして，児童の実態を考慮し，新防災副読本 P.31「津波から避難の手引き（暫定版）」 P.27「災害用伝言ダイヤル（171）」を使用した。

- ・ 中野小学校の被害などの写真を見せる。
→津波の被害について児童に具体的に知らせる効果があった。



←何を伝えるか
を書く児童

（児童の感想）

- ・ 私は震災の時，電話が繋がらなくてとても大変でした。これからは災害用ダイヤルを使っていきたいと思います。
- ・ 私たちの地域は津波の被害がなかったので津波のことをよく知ることができました。今日の避難訓練は気を引き締めていきたいと思いました。
- ・ 防災訓練をしていれば助かる可能性が上がるということが分かった。

学校名 [仙台市立高森小学校]

氏名 [吉田 啓介]

[小] 学校 [4・5・6]

年版 単元名 [災害から身を守るために] p 32～33

教科・領域名 [学級活動] [時間 45分]

主な学習活動 (実際に行った活動)

指導の実際

【ねらい】

・様々な場所を想定して、災害(地震)が起きたときに、自分の身をどのように守るのかを考える。

- 1 休み時間の避難訓練の振り返りをする。
- 2 教科書を見る。(副読本 p 32～33)
- 3 地域・安全マップを見る。
(家の周りでの危険・避難箇所の確認)
- 4 通学・帰宅中に地震が起きたときの行動の仕方を考える。

もしも、通学・帰宅中に地震が起きたら、どのような行動をとりますか。

【場面で考える】

- ・歩道で歩いているとき
- ・横断歩道を渡っているとき
- ・住宅の周囲を歩いているとき
- ・公園付近にいるとき
- ・避難所付近にいるとき
- ・家の近くにいるとき
- ・エレベーターの中にいるとき

- 5 まとめをする。
・「自助」について知り、学校で行われる避難訓練で地震に対する意識していく。

- ・チェックシートを活用して、休み時間の避難訓練の行動を振り返る。項目ごとに、できたところと反省すべきところを確認する。
- ・仙台市の避難所の場所を確認する。
- ・社会科で作成した地域・安全マップで高森学区内の避難所の場所を確認する。



- ・通学、帰宅中に地震が起きたら、どのような行動をとるのかを考える。
- ・それぞれ想定される場面を提示し、それぞれの身の守り方を考えてみる。(校内時との比較)



- ・地震が起きた時に、自分で安全な場所を見つけ、安全な行動を取ろう。



ひなんくんれん ひょう 避難訓練チェック表

じぶん ひなんくんれん
自分の避難訓練の様子をふりかえってみましょう

【◎よくできた ○できた △もうすこし ×できなかった】

NO	ないよう	じこひょうか	
		9/6	9/13
1	「 お ちてこない。」「 う ごいてこない。」 「 た おれてこない」 ^{ばしょ} 場所にひなんできた。		
2	^{ほうそう} 放送を し ずかに き 聞けた		
3	^{ほうそう} 放送の せつめい が わ 分かった。		
4	^{あたま} 頭を て 手や ^{ぼうし} 帽子, ^{ほん} 本などで まも 守れた。 (→つくえの した の下にもぐる こ うができた。)		
5	お さないでひなんできた。		
6	は しらないでひなんできた。		
7	しゃ べらないでひなんできた。		
8	ひなんの とき 、 も どらなかった。		
9	ひなんの あと 、 すばやく ^{せいれつ} 整列できた。		
10	^{さいご} 最後まで ふざ げずにできた。		

10のやくそく。あなたは、すべてまもれたかな



もしも、
ろうかで



じしんがおきたら!?

<ひなんのしかた>

- 1 からだをひくく
- 2 あたまをまもる
- 3 時間があれば、近く
の教室のつくえの下へ
- 4 せんせいをまつ
- 5 ひなんする



「**お**ちてこない」「**う**ごいてこない」「**た**おれてこない」

学校名 [長町南小学校]

氏名 [大友 いほ子]

[小] 学校 [4・5・6] 年版 単元名 [災害から身を守るために] P 3 2 ~ 3 3

教科・領域名 [学級活動] [時間 4 5 分]

主な学習活動 (実際に行った活動)

指導の実際

1 絵の中の危険個所を挙げる。

この絵の中にある、「危ないところ」を見つけよう。また、その理由も考えよう。

- ・道路で、ボール遊びをしない。車がきているから危険。
- ・暗い道や人通りの少ない道は危険。
- ・物陰に悪い人がいそうだから気をつける。

2 自然災害について話し合う。

- ①大雨の時に気を付けること。
- ②雷が鳴った時に気を付けること
- ③「竜巻かも」と思ったら。

- ①②③急いで家に帰る。
- ①②建物の中へ入る。雨宿りをする。
- ③安全で丈夫な建物の中に入る。
- ③風が吹いてくる方向へ逃げない。

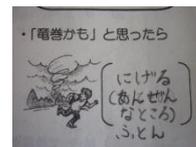
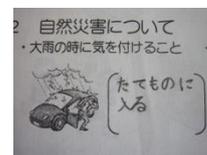
いずれの場合も、頑丈な建物に入りましょう。

3 「防災家族会議」を開こう・危険なところ安全なところチェックカードの記入の仕方について知る。

- ・地区ごとの地図を持ってチェックする。
- ・社会の学習で確認した「一時避難所」になっている公園などを確かめる。
- ・子どもだけで留守番をしているとき、どうすればよいかきちんと話し合っておく。

3. 1 1の担任の体験談：学校の児童最優先のため、自分の家には帰れず、先生の子供は、前から約束していた友達の家にお世話になった。

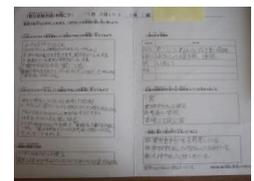
・ワークシートの絵に印をし、ペアで話し合う。



児童からの質問

- ①キャンプに行っているときは？
→ 車で崖や川の近くから遠ざかる。
- ②学校の中庭に高い木があるが雷は落ちないか心配 → 窓から見える校舎の屋上に避雷針があるから大丈夫。

*引渡訓練後、下校しながら保護者と一緒にチェックをする。



*このチェックカードを使用して、9月に縦割り防災集会を開きました。

縦割り防災集会活動

	主な活動内容	留意点	資料
10:45 10:48 7分	<p>*メンバー確認</p> <p>1 通学途中に地震が起きたらどうすればよいかを知る。</p> <p>(1) DVD視聴(3分38秒) (放送室より一斉に流す)</p> <p>(2) ポイントを確認する。 (担当の先生)</p>	<p>『落ちてこない 倒れてこない 移動してこない』場所に</p> <p>自助 自分の身を守る 共助 低:周りの人と一緒に 中:考えて行動 高:進んで行動</p>	<p>DVD 文部科学省 『安全に通学しよう』 ～自分で身を守る,みんな で守る～ 災害安全(防災) 地震のとき1～3年</p>
10:55 15分	<p>2 リーダーを中心に自分たちの地区について話し合い,確認する。</p> <p>(1) 通学路で危ないところを確認する。 (2) 地域の公園など安全なところを確認する。 (3) コンビニ,ガソリンスタンド等,困った時に助けとなるところを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各自が記入した防災マップを持ち寄り,参考にしながら話し合わせる。 各教室で,カラーペン(赤・緑)マグネットを用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災マップ(個人) 掲示用 防災マップ(拡大)
11:10 15分	<p>3 「防災かるた」で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2グループに分かれて行う。 6年生・・・1年生のお世話, 5年生・・・読み札を読む, 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年がリーダーとしての意識を持つことができるようにする。 同じ地区のみんなと仲良くなるように声を掛ける。 できたら,カルタの内容にも心が向くように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス備え付けの防災カルタ
11:25 5分	<p>4 まとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の友達と声を掛け合い助け合う。 地震が起きたときは,自分で身を守る。 安全な場所,危険な場所を覚えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 終了後,書き込んだ拡大マップを1階廊下に掲示する。

新防災教育副読本 1・2・3・年版

単元名「ひなんのしかたを考えよう」 P30-31

「ぼうさいマップを作ろう」 P28-29

「ぼうさいリュックを用いしよう」 P36-37

4・5・6・年版

「家族防災会議を開こう」 P36-37

「災害が起きたら」 P30-31

6 身を守るためには、普段から災害に備えておくことが大切であることを理解する。

- ◇「災害にあった時のために、普段からどんなことをしておいたらよいでしょうか。」
- ・普段から身の回りを片付ける
- ・避難訓練で行動の仕方を身に付ける
- ・安全な場所、危険な場所を考える
- ・家族で話し合う
- ・経験を話す、家族に聞く
- ・災害の知識を持つ など

2 時間目「災害から命を守るために2
地震から自分の身を守る」

【ねらい】

- ・地震のゆれで身の回りがどう変化するのか理解できるようにする。
- ・地震でゆれているとき、様々な場所で起こる災害の危険について理解できるようにし、安全に行動しようとする態度を育てる。

1 大きな地震の災害について学習する。

- ◇「大きな地震が起こった時について考えてみましょう。」
- ◇「大きな地震が発生すると学校や家、町はどうなってしまうのでしょうか。」

2 地震が起きたらどのような危険があるか、どのように身を守れば良いか考える。

- ◇「地震が起きたらどんなところが危ないと思いますか。」
- ◇「けがをしないために、自分だったらどうしますか。」
- ・グループで話し合い、考える。
- ・グループ毎に考えたことを発表し合い、状況に応じた身の守り方を考える。

(スライド5)

○どんな備えがあるか、学校や家でできることを考えさせる。

(副読本P34～35活用)

準備物：パソコン プロジェクタ スクリーン
日本地図 副読本 ワークシート

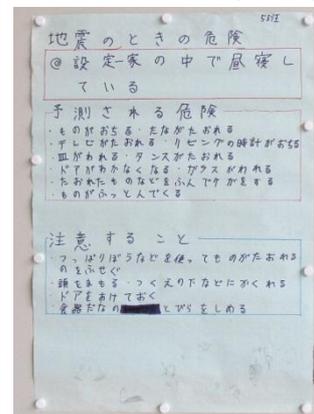
※新防災教育副読本「3・11から未来へ」
仙台災害年表(P62～63)を使用

○年表の一部を隠し、身近な地域で何度も不定期に大地震や津波が発生していることを振り返らせる。



○ワークシートを配布し、地震のときの危険についてグループで話し合わせる。

○十分話し合わせた後、各グループで考えたことを発表し合い、理解を深めさせる。



学 年	4年	教科・領域	学級活動	副読本P	P36・37
第4章4			家族防災会議を開こう		

仙台市立東四郎丸小学校 4 学年

「家族防災会議を開こう」

○ねらい

日頃から災害発生時の対応や連絡方法などを家族と話し合い、もしもの場合に備えておくことで、防災意識を高める。

学習活動及び発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 避難訓練を振り返る。</p> <p>今日の訓練は、避難の約束などを守って真剣に取り組むことができましたか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> あわてないで先生の指示を聞いて動きました。 避難したあともすぐに整列して次の指示を待てました。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 児童から意見を出させる中で、学校での避難のしかたや避難時の約束などを確認させる。
<p>2 学習課題を知る。</p> <p>大きな地震が起きたとき、家族はどこに誰といるか分かりません。電話もつながらなくなります。</p> <p>【学習課題】家族が別々に被災したときに、どうやって連絡を取り合ったらいいか考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家に一人にいるときに地震が起きたらどうしよう。 停電になったら電話はたしかにつながらない…。 どこに避難したら家族と会えるかなあ…。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 非常災害発生時、情報伝達手段が限られることをおさえさせる。 ◇ 児童が一人で被災した場合にも、家族と出会うようにするには日頃から防災について家族と話し合うことの重要性に気付かせるようにする。
<p>3 家族で話し合う内容を考える。</p> <p>どんなことを日頃から家族と話し合っておく必要があるのでしょうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> どこに避難するかを話し合うといいと思います。 もしもの時は、お互いに近所の人とお願いし合う。 指定避難所を家族と一緒に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 副読本P 36～37を読み、①連絡先をいくつか決めておくこと、②地域の指定避難所など家族みんなが避難する場所を決めておくこと、を確認する。
<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートなどに、今日の授業の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子ども防災マニュアルを活用して、家族で子ども防災マニュアルの「もしもの時に備えて」を確認するよう指示する。 ◇ 家族で災害時の役割分担なども事前に決めておくようにするといいことも児童に説明する ◇ 本時で分かったことや考えたこと等を書かせる。

学 年	5年	教科・領域	学級活動	副読本P	P36.37
第4章4			家族防災会議を開こう		

仙台市立東四郎丸小学校 5学年

「もしもの時、どんな『そなえ』が必要？」

○ ねらい

地震等のもしもの場合において必要な『そなえ』について考えることで、自分や家族の命と安全を守るのに必要なものは何かを理解する。

学習活動及び発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 学習課題を知る。(5分)</p> <p>みなさんは、「非常持ち出し袋」という言葉を聞いたことがありますか？おうちに用意している人？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 聞いたことあります。地震に備えて、必要なものを入れておく袋です。 食べ物とか飲み水をいれておく物だね。 うちに用意しているよ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 児童がどのくらい「非常持ち出し袋」について知っているか、また、どのくらいの家庭で準備をしているか大まかに把握する。 ◇ 課題を提示したならば、「地震の時に必要だと感じたものは何か」と児童に問いかけ、発言させる。本時への学習意欲を高めさせる。 ◇ 個人で考えたことをグループ内で発表することで考えを共有化させる。
<p>【学習課題】今日は、非常持ち出し袋など、もしもの時に必要な『そなえ』について、みんなで考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「そなえ」か～。何が必要なのかな・・・。 やっぱり食べ物と水でしょ。 毛布なんか必要だったよ。 	
<p>2 個人で考える。(6分)</p> <p>一人一人どんな物を非常持ち出し袋に入れるか考えてみましょう。必要だと思う物を10個ワークシートに書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水以外には、着替えかな。 毛布とかはどうだろう・・・。 薬も必要だね！ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ グループ内での発表後、友だちの意見で「なるほど！」「共通点！」「驚き！」を見付けさせる。
<p>3 グループで発表する。(9分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをグループ内で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「そなえゲーム」について、ゲスト・ティーチャーから説明してもらおう。 ◇ カードは、全部で30個あることを説明する。もしもの時に、「自分や家族の命や安全を守る」ために必要な物を選ぶよう指示する。
<p>4 「そなえゲーム」に取り組む。(25分)</p> <p>「そなえゲーム」をグループで行います。グループごと、カードの中からもしものに備えて必要だと思う物を10個選びましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「そなえゲーム」って何？ グループのみんなの意見が分かったから、それを参考に考えてみよう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ グループで1つにまとめられない時には、いくつかのパターンを提示してもいいことを助言する。 ◇ 選んだカードを非常持ち出し袋の画用紙に貼るように指示する。 ◇ 全体に、グループごと「そなえゲーム」の結果を発表し、全体で共有化させる。

<p>5 全体に発表する。(12分)</p> <p>6 物以外の「そなえ」について、グループで考える。(15分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10個か〜。何個の中から選ぶんだろう。 ・ どれも大切だよね…。 ・ グループ代表者一人ずつ、全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ なぜその物を選んだか、理由も説明するよう指示する。 ◇ 副読本P37を読み、「非常持ち出し袋」に入れた方がよい常備品の例も提示し、家族と一緒に準備してみるよう助言する。 ◇ もしもの時の具体的な場面を提示し、その場面に対応できるように事前に備えておく必要があることを考えさせる。 ◇ グループで出た「物以外のそなえ」について、画用紙に赤マジックで書くよう指示する。
--	---	---

☆ 場面設定

学校から家に帰りました。家には自分一人です。その時、大きな地震が起きました。電気・ガス・水道が止まりました。電話もつながりません。家族と連絡が取れない状況になりました。大津波警報も発令されました。

【学習課題】

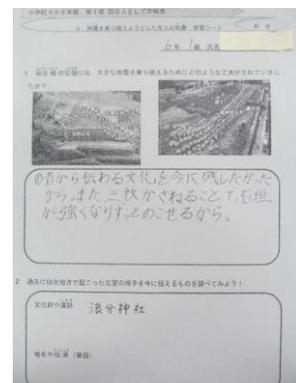
こんな場面に対応できるように、必要な『そなえ』について考えましょう。

<p>7 全体に発表する。(15分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「物以外」って何だろう？ ・ 物は分かるけど、それ以外に必要なことって…。 ・ 家族と連絡を取れるようにしなきゃいけないよね。 ・ 津波が来るかもしれないから、学校に避難しなきゃ！ ・ 避難する場所を家族で話し合うことが「そなえ」なんじゃない？ ・ グループ代表者一人ずつ、全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 全体に、グループの話合いの結果を発表し、全体で共有化する。 ◇ 「子ども防災マニュアル」を配布し、家族で話し合ったり、確認したりする必要があることについて、説明する。 ◇ 本時で、学んだこと・分かったこと・考えたことを視点にして振り返るように助言する。
<p>8 本時の学習を振り返る。(3分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の振り返りをワークシートに記入する。 	

※「そなえゲーム」とは、プレイヤーが架空の住民になって、「災害に備えるために、自分や地域に何が必要か」について考えながら実践的に学べる参加型のカードゲーム。(作成：市民協働による地域防災推進実行委員会)

主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>1 仙台城の地震被害について知る。</p> <p>仙台城の石垣は、今までに何度災害に遭ってきたのだろうか。どんな災害の様子だったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本丸跡の石垣が、3か所、約60メートルに渡って崩れ落ちた。 江戸時代のおよそ260年間に、10回以上の大きな地震を経験した。 大地震が起こる度に石垣が崩れ落ちた。 	<p>○ 石垣の崩落の様子を伝えるために仙台市教育委員会文化財課のweb ページ『仙台城』の資料「東日本大震災からの復旧」「石垣は語る」をテレビ画面で提示し、関心を高めた。</p> <p>○ 副読本 P.62「自然災害年表」を提示し、仙台城の地震被害（築城以来18回の地震に見舞われたことなど）について確認させた。</p> 
<p>2 仙台城の修復の様子について調べる。</p> <p>石垣を修復して分かったことはどんなことだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在見える石垣の内部にも古い石垣が残されていた。 整然と並べられた石の列が見つかった。 	<p>○ どのようなものが発見されたのかを中心に、web ページ『仙台城』を使って、みんなで確認した。</p>
<p>3. 地震を乗り越えるための知恵について話し合う。</p> <p>どうして古い石垣を残したのだろうか。 石の列は、どのような目的で作ったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 強度を増すため。 昔の石垣を残して、広く、高くすると安定すると思う。 昔の石垣を残せば、地震があつて崩れたことを後世に伝えられると思う。 三重構造の方が頑丈だから。 今までの地震に耐えてきたから、そのまま残した。 	<p>○ 写真資料などを用いて具体的にとらえさせた。</p> <p>※ 児童には、一部を拡大したものを提示し見やすくした。Ⅲ期工事までに行われた石垣内部の様子が分かりやすい資料だが、パソコンを使用するなどすればなお分かりやすいと考える。</p> <p>○ 初めにワークシートを活用し、自分で調べたことをまとめた。その後、グループでの話し合い活動を取り入れ、考えを共有しながら、石垣背後の盛土や裏込石が築かれた理由などについて考えさせた。</p>

<p>4 これからの学習について見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>仙台城の石垣のように、過去に仙台地方で起こった災害の様子を今に伝えるものを調べてみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 副読本 P. 62 「自然災害年表」から地震以外の自然災害にも目を向けさせ、大雨や洪水被害の多さに着目させた。 ○ 副読本 P. 47 「地名が伝える先人のメッセージ」から、文化遺産だけでなく、地名や伝承にも注目すると、災害を後世に伝えようとしていることが分かるということに気付かせた。 <ul style="list-style-type: none"> さらに、例示として、「浪分神社」を板書した。 (例) 浪分神社 若林区霞の目 霞の目駐屯地付近 慶長の津波の際に神社手前まで津波に襲われ、津波が2方向に分かれて引いていったことを伝える文化財。 ○ 歴史的な遺産は、先人の知恵や願いを知ることができる貴重なものであり、防災という視点からも大切にしなければならないものであることに気付かせた。 ○ 副読本の展開例と同様に、次時にパソコンを利用し、文化遺産や地名、伝承にも注目し、災害の様子を今に伝えるものを調べてみることにした。 <p><指導後の振り返り></p> <p>副読本や web ページを活用すると児童にも分かりやすく進めることができると感じた。活用できる web ページが、デジタル教科書のように副読本と一体化しているものがあるとなお活用しやすいと思う。調べる内容もデジタルコンテンツとしてまとめられていると活用しやすい。授業の場所として、パソコン室を利用して web ページをより有効に活用する方法もあると思う。</p>
---	---



校種	小学校	学年	6年	教科・領域	外国語活動	副読本P	P48
新防災教育副読本 第5章 1				つながる～世界の国々と～			

授業者 仙台市立七郷小学校 村上 博基 教諭

【ねらい】 時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。

国際姉妹都市からの支援について感謝の気持ちを持たせる。

	児童の活動	指導者の活動	準備物・児童の反応 (◇)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示された地図上の都市を見て何を表した地図かを考える。 ・ 各地の写真を見ながら、国も考えてみる。 ・ 各都市の時差について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台に注目させ、他の都市との関係を考えさせる。 ・ 地図上で都市と国を一致させる。 ・ 各都市の写真に数字入れ、その数字が何であるか考えさせる。 ・ 「時差」という言葉を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台市の姉妹都市の地図 ◇しばらく考えた後、「友好都市！」という声が聞かれた。 ・ 各都市の写真 ◇ベラルーシやフィンランドは難しいようで正解はいなかった。他は正解した児童がいたのには驚いた。(特にアカプルコ→メキシコ) ◇時間の差ということに気が付く。
展開 I	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの都市が今何時なのかを考えていく。 ・ 各地の時間を想像してみる。 <p>国際姉妹・友好都市／協定姉妹都市</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台が 12 時 5 分のときの各都市の時間を英語で聞く。 What time is it in Dallas? It is 9 :05PM. →時刻を尋ねる表現に慣れる。 →AM・PMにも触れる ・ ダニエル先生の母国カナダや、担任が勤務していたベルギーの時刻も知らせ時差を実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇単純な引き算だが、12 時間を超える時差のあるアメリカなどはなかなかすぐには言えなかった。 ◇午前・午後の言い方を知り納得していた様子。 ◇場所によって早朝であったり、まだ昨日の夕食の時間帯であったりすることについて驚いている児童が多く見られた。
展開 II	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災時の姉妹都市の支援について知る。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際姉妹都市からの支援に感謝するとともに、七郷小学校が海外から受けた支援を思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新防災教育副読本 (P48) を活用 ・ 副読本を活用して、震災後にどんな支援があったかを知る。 ・ ジェスチャーと写真、簡単な英語で支援について紹介する。 Water, It's a present from Choshun China. Messages from Dallas. Charity event in Tainan. ・ 七郷小学校が受けた海外からの支援を思い出させる。(メッセージ等を思い出させる) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇国際姉妹都市からの支援について知らなかった児童が多く見られた。 ◇「国際姉妹都市からの支援がうれしかった。自分も、姉妹都市に何かあったときは、できることがあれば何かしてあげたい。国際姉妹都市に恩返しをしたい。」という感想が聞かれた。
終結	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りカードに記入する。 ・ 感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に感想を発表させる。 ・ どの話もじっくりと受け止める。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカード

姉妹都市から色々な支援をもらって本当にありがたしと思うし、助け合いはいいなと思った。

【評価】 時刻を尋ねる表現に慣れ親しんだか。

国際姉妹都市からの支援について感謝の気持ちを持つことができたか。

学 年	6学年	教科・領域	学級活動	副読本P	P52・53
第5章3			取り組もう！ボランティア活動		

仙台市立東四郎丸小学校 6学年

「もしもの時、私たちにできることは」

○ ねらい

ボランティア活動に取り組む人々の存在を知り、災害発生時に地域や家庭で自分にできることを考え、実践しようとする姿勢を持つことで「共助」の精神を身に付ける。

学習活動及び発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 「共助」について知る。</p> <p>みなさんは、「共助」という言葉を知っていますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共に助ける…どういうことだろう？ ・ 地震の時に、みんなで助かろうってことじゃないかな。 ・ そうだね、みんなのために自分の力を発揮することだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「共助」の意味をしっかりとおさえさせる。 ◇ 「自助」と「公助」についてもおさえさせ、「共助」と比較させる。
<p>2 学習課題を知る。</p> <p>【学習課題】大きな地震が起きた時、家族や地域のために自分にできることを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にできることか…。まずは、自分の命を守ること。 ・ 家族のためか…。何ができるかなあ。 ・ 地域のためって何だろう？自分に何ができるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まずは、自分の命を自分で守ることを最前提とすることを確認する。 ◇ その上で、「家族のため」や「地域のため」を強調し、自分以外の人のために、自分に何ができるかを考えることを明確にする。
<p>3 映像を見る。</p> <p>東日本大震災の時に、みんなと同じ年代の子供たちがどんな行動をとったか、映像を見せます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映像を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 実際の映像資料を参考にすることで、自分達にもできることがたくさんあることに気付かせる。 ◇ 副読本P52～53を見ながら、ボランティア活動への取り組みが、「共助」につながることを説明する。
<p>4 考えを発表する。</p> <p>東日本大震災の時に、みんなと同じ年代の子供たちがどんな行動をとったか、映像を見せます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家の倒れた家具などを元どおりにするのを手伝う。 ・ 避難所の炊出しや配給を手伝う。 ・ 水を運ぶのを手助けする。 ・ 避難所のトイレの掃除などを手伝う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 家庭や地域（特に避難所）のために、自分にできそうなことを、たくさん出させる。 ◇ 自分にも、家族や地域のためにできることが、たくさんあることに気付かせることで、自己有用感をもたせる。
<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに、今日の授業の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分の考えや、新たな発見や疑問などを書くよう指示する。

新防災教育副読本（小学校４・５・６年）

『第３章１ 地震のメカニズムを知ろう』を活用した理科の指導事例

第６学年 理科学習指導案

1 単元名 大地のつくりと変化（６年） （実施時期１０月～１１月）

2 単元の目標

- ・ 身のまわりの大地やその中にふくまれる物に興味をもち、大地の構成物やでき方について資料などで学習したことをもとに地層を観察し、そこが、水のはたらきと火山のはたらきの、どちらのはたらきでできたところかを推論できるようにする。
- ・ 大地の変化について、自然災害と関係付けながら調べ、大地は地震や火山の噴火などによって変化することをとらえるとともに、そこに見られる自然の力の大きさを感じとれるようにする。

3 単元について

（１）教材について

本単元は、学習指導要領B生命・地球（４）「土地やその中に含まれる物を観察し、土地のつくりや土地のでき方を調べ、土地のつくりと変化についての考えをもつことができるようにする。」を受けて設定されたものである。また、第５学年「B（３）流水の働き」の学習を踏まえて、「地球」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうち、「地球の内部」にかかわるものであり、土地のつくりと変化について学習する単元である。

児童は、これまで、流れる水のはたらきと土地の変化の関係について学んでいる。本単元では、実際に露頭を観察したり、地層のでき方を実験で調べたり、写真資料や図書資料等を活用して大地のつくりを調べたりする活動を通して、過去に起こった火山の活動や地震によって土地が変化することを推論しながら学習できる展開になっている。

（２）児童について

（省略）

（３）指導について

既習事項や生活体験から児童が持っている知識や断片的な情報と本単元の学習内容と結びつけていくようにする。また、露頭の観察や、岩石資料などの大地の構成物を調べる活動を通して、大地は水のはたらきでできたのか、火山のはたらきでできたのかについて推論しながら調べ考察させる活動や主体的な問題解決の活動を繰り返していくことで実感を伴った理解を図っていきたい。

また、ボーリング資料や岩石標本の他に、図書資料として小学校理科副読本「仙台の自然」を活用する。「仙台の自然」の活用を通して、私たちが住んでいる仙台の大地の変化について考えさせるようにする。それぞれの時代の大地の歴史の特徴を整理・分析することで、長い年月をかけて水のはたらきや火山のはたらきでできたことに気付かせ、環境を知る手がかりとなる言葉や文から、当時の環境を推論させるようにする。さらに、自分が調べたことを伝え合う活動を通して、私たちが住んでいる仙台市の大地のでき方について興味や・関心を高め、一人一人が、仙台市の大地の成り立ちについて更なる理解を深められるようにする。

新防災教育副読本（小学校4・5・6年）

『第3章1 地震のメカニズムを知ろう』を活用した理科の指導事例

単元のまとめの学習では、防災に対する思考力・判断力を育むために**新防災教育副読本**を活用した学習を取り入れる。**新防災教育副読本「3・11から未来へ」**の活用をとおして、土地の変化について学んだことと日常生活とを関連付け、将来、大きな地震や火山による災害が起きる可能性があることについて推論させるようにする。また、これまでの自然災害の教訓から、災害が起きたときに身を守る術を意識させ、日常生活と関連させて、火山の噴火や地震は、断層ができるなど短時間で大きく土地を変化させることがあることを理解できるようにしていきたい。

（本時で行う防災教育の位置付けを明記する）

4 単元の指導計画および評価規準（本時 9/10）

	時間	主な学習内容（活動）	指導上の留意点・支援	評価規準	資料・準備物
第1次 がけにしま模様が見られるのはなぜか 1時間					
	1	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちの住んでいる大地は、どのような物できているのか、資料を見て話し合う。 地層はどのような物できているのかを知り、地層がどのようにできたかを考え、話し合う。 	写真資料や、ボーリング資料から、大地をつくっている構成物に興味を持たせ、地層ができた理由を考えさせる。	大地をつくっている構成物や地層のでき方に興味をもち、進んで大地のつくりやでき方を調べようとしている。（関心）	<ul style="list-style-type: none"> ボーリング資料 写真資料 ふるい
第2次 地層はどのようにしてできるのか 3時間					
	1	<ul style="list-style-type: none"> 水のはたらきでできた地層のでき方を考え、水槽に土を流し込むモデル実験を通して調べる。 	砂、泥、礫を含む土を水に流して、モデル実験を通して、水のはたらきでできる地層のでき方を考えさせるようにする。	砂や泥をふくむ土を水に流しこみ、水のはたらきでできた地層のでき方を調べている。（技）	<ul style="list-style-type: none"> 鉄製スタンド 雨とい 泥、砂、れき
	1	<ul style="list-style-type: none"> 水のはたらきでできた地層の特徴や、堆積岩や化石について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 水のはたらきでできた地層の特徴について、形や大きさなどに注目させ資料をもとに話し合わせる。また、堆積岩の標本を観察させ、粒の大きさによって異なることを捉えさせるようにする。 	実験や資料から、地層の多くは流れる水のはたらきによってできていることを推論し、自分の考えを表現している。（思・表）	<ul style="list-style-type: none"> 小学校理科副読本「仙台の自然」 堆積岩（れき岩、砂岩、でい岩） 化石
	1	<ul style="list-style-type: none"> 火山のはたらきでできた地層の特徴を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 火山のはたらきでできた地層の特徴について、形や大きさなどに注目させ資料をもとに話し合わせる。また、水のはたらきでできた地層と比較しながら、相違点を話し合わせる。 	地層は、流れる水のはたらきや火山のはたらきによってでき、化石が含まれている物があることを理解している。（知・理）	<ul style="list-style-type: none"> 小学校理科副読本「仙台の自然」 火山灰 双眼実体顕微鏡
第3次 わたしたちが住む大地はどのようにしてできたのか 2時間					
	2	<ul style="list-style-type: none"> 現地観察の計画を立て 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の近くに露頭が 	地層やボーリン	<ul style="list-style-type: none"> 記録カード

新防災教育副読本（小学校４・５・６年）

『第３章 地震のメカニズムを知ろう』を活用した理科の指導事例

		て、そこが水か火山のどちらのはたらきでできたかを観察して記録にまとめる。	ある場合には、地層の重なりや広がりについて観察記録に示し、水のはたらき、火山のはたらきのどちらでできたかについて観察記録を基に考えさせるようにする。	グ資料を観察し、観察した地層の構成物の様子や特徴などを記録している。 (技)	・ビニール袋 ・シャベル ・ハンマー
第４次 地震や火山の噴火による大地の変化を調べよう ４時間					
	2	・火山による土地の変化や地震による土地の変化のどちらかを選び、調べたことや観察したことを基に、大地の変化と災害についてまとめて、発表する。	・火山の噴火や地震は、短時間で大きく土地を変化させることに気付かせ、大地の変化がもたらすエネルギーに着目させ、自然の力の大きさを感じとらせるようにする。	・地震や火山の噴火による大地の変化について調べ、調べたことを基に、自分の考えを表現している。 (思・表)	
	1	・地震による過去の大地の変化から、地震が将来にも起こる可能性を考え、短時間で土地が大きく変化し、様々な災害が起こることを捉える。	・地震による大地の変化を特徴付ける資料や仙台の自然災害年表を提示し、将来大きな地震があることを推論させるようにする。	・地震によって、土地の様子が大きく変化する可能性を理解し、大きな地震がもたらす災害について考えることができる。(思考・表現)	新防災副読本小学校４・５・６年版「３・１１から未来へ」
	1	大地のつくりと変化について、学習したことをまとめる。	・水のはたらきでできた地層や火山のはたらきでできた地層や、大地の変化によって様々な災害が起こることを資料と関連付けながら捉えられるようにする。	・大地は、地震や火山の噴火によって変化することを理解している。(知・理)	

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- 過去に起こった地震の記録から、日本は世界の中でも地震が起きやすい地域であることに気づき、これからも、大きな地震によって、様々な災害が起こる可能性があることを考えることができる。

(2) 本時の指導にあたって

- 過去の「世界の地震発生分布」（1990年から2000年までの世界の地震の震央分布、マグニチュード4.0以上の地震が発生した場所）の資料や仙台の自然災害年表を提示し、日本は地震が多く発生する地域（地震大国）で、これからも大きな地震が起こる可能性についてデータを基に推論させ、地震が引き起こす災害に対する防災意識を啓発する。

新防災教育副読本（小学校４・５・６年）

『第３章１ 地震のメカニズムを知ろう』を活用した理科の指導事例

- 地震による地割れや断層によって、土地の様子が大きく変化することから、様々な災害が起こることを推論させる。災害と日常生活を関連付け、地震による災害に備えるためにどのような対策が行われているかを話し合うようにする。

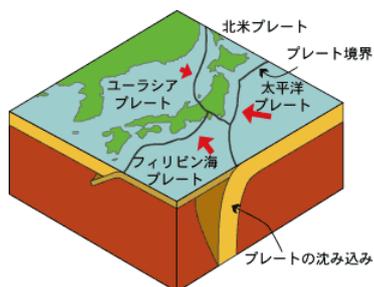
(3) 指導過程

主な学習活動・内容（○主な発問 ・児童の反応）	・留意点 ◎評価
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="156 562 1023 707" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 今日の授業では、日本が世界の中でも地震が起きやすい地域であることと地震が起きるわけを理解し、地震の被害をできるだけ少なくする方法を考えていきましょう。</p> </div> <p>2 新防災教育副読本 p20 の図「世界の地震発生分布」（1990年から2000年までの世界の地震の震央分布、マグニチュード4.0以上の地震が発生した場所）を見て、気付いたことを発表する。</p> <div data-bbox="145 943 1038 1093" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 図の赤い点は1990年から2000年までの10年間で地震が発生した場所を示した世界地図です。気が付いたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の周りがとても多く地震が発生している。 ・地震が多く発生する場所は、決まっている。 ・地震が発生しやすい場所とそうでない所がある。 ・日本のどの地域でも地震が多い。 ・地震が起きやすいところは、線のようにつながっている。 </div> <p>3 学習の問題を知る。</p> <div data-bbox="153 1384 1094 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 日本の周りで地震が多いのはどうしてだろうか。また、大きな地震が起きると私たちの生活にどのような影響を及ぼすのだろうか。</p> </div>	<p>本時で目指す児童の姿</p> <div data-bbox="1078 568 1453 972" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>世界の中で日本はとても地震が起きやすい場所であることに気付き、将来も大きな地震が多く起きることを推論し、大きな地震によって様々な災害が起こる可能性について考えることができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・10年間の地震のデータから、世界の中で日本や日本の周りにはとても地震が起きていることに気付かせる。
<p>4 予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋の周りで地震が多く発生していて、日本は海に囲まれているから。 ・世界でも海に囲まれているところに地震が多いから。 <p>5 地震が起きるわけを知る。</p> <div data-bbox="148 1816 1015 1912" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 4つのプレートのどんなところで過去の地震が多く起きていますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋プレートの境目で多く起きている。 ・フィリピン海プレートの周りがとても多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の地図帳を用意して、地震分布表と対応させながら考えさせる。 ・新防災教育副読本の資料の図を示し、日本の周りや太平洋周辺で地震が多いのは、4つのプレートが関係していることに気付かせる。 ・プレートが動いて大地にず

新防災教育副読本（小学校4・5・6年）

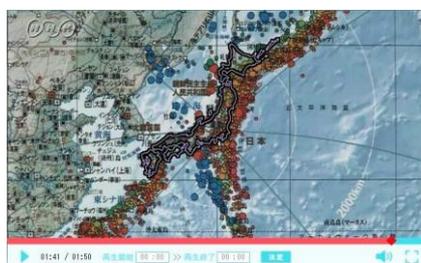
『第3章1 地震のメカニズムを知ろう』を活用した理科の指導事例

- それぞれのプレートの周りで多く地震が起きている。



6 日本で地震が多いわけを知る。

- NHK 6年「ふしぎがいっぱい」のクリップ映像「地震の多い国・日本」（1分50秒）を視聴し日本に地震が多いわけを知る。



7 過去に仙台で起きた地震について知る。

○江戸時代から現在まで、地震が起きた自然災害の年表を見て気付いたことを発表しましょう。

- 仙台で江戸時代の間、マグニチュード7以上の大地震が7回も起きている。
- 昔にも、大きな地震によって津波が起こっている。
- 2011年の地震は、過去に起きた地震の中で一番大きいM9が起きている。
- 平成の時代にも、M7以上の地震が3回も起きている。
- 過去の大地震によって、仙台城の石垣が崩れたり、東照宮が壊れたり、建物が壊れている。
- 大きな地震は繰り返し起きている。

8 災害予知と防災について考える。

○地震は私たちの生活に大きな影響を与えます。地震によって、どのような災害が起きる可能性があるか、また、大きな地震が起きたときに取られている対策にどんなものがあるか考えてみよう。

- 大きな地震によって、津波が起こる可能性があるので、津波警報をテレビやラジオで流す対策が取られている。

れが生じると地震がおきることについて資料を示しながら伝える。

- 日本付近には4つのプレートがあり、大地のずれが起きやすいことから地震が起きやすいことに気付かせる。

・NHKのクリップ画像を視聴し、過去の地震の記録から、地震が日本で多い理由について、確認するようにする。

（第11回火山の力>「地震の多い国・日本」）

・新防災教育副読本 p62 の年表「仙台の自然災害年表・復興年表」を提示し、大きな地震が定期的に起きていることに気付かせる。また、大きな地震によって生活に大きな影響を与えることに気付かせる。

・東日本大震災では、震度6強を観測したことを伝え、今後もこのように大きな地震がいつ、どんなときに起こかわからないことを伝える。

本時の評価

・地震によって、土地の様子が大きく変化する可能性を理解し、大きな地震がもたらす災害の対策について考えることができたか。（思・表）

新防災教育副読本（小学校4・5・6年）

『第3章1 地震のメカニズムを知ろう』を活用した理科の指導事例

- ・大きな地震によって、建物が崩れないように、補強工事などがされている建物がある。
- ・過去の津波の高さを示し、津波に対する注意を呼びかける看板が設置されている。
- ・大きな地震が引き起こす、津波には、津波からの非難の手引きが仙台市で出ているよ。

・新防災教育副読本 p31 の年表「被害をすくなくするために（減災）」を提示し、減災の方法について考えさせる。

9 本時の学習を振り返る。

○ 今日の学習をして、考えたことやこれから心がけたいこと等を書きましょう。

- * この指導案は、学習活動1～9までを1時間で行う指導案です。
学習活動1～6までを1時間、学習活動7～9までを1時間で行っても構いません。

(4) 板書計画

<p>1 学習の問題</p>		<p><大きな地震が引き起こす災害と防災></p>
<p>日本の周りで地震が多いのはどうしてだろうか。また、大きな地震が起きると私たちの生活にどのような影響を及ぼすのだろうか。</p>	<p>1990年～2000年の間に起きたマグニチュード4以上、深さ50km以内の地震</p>	<p>(災害) ・津波 ・がけくずれ ・断層</p>
<p>2 予想</p>		<p>(減災) ・緊急地震速報 ・建物の補強工事 ・避難の手引き ・過去の津波の看板</p>
<p>日本列島周辺には4つのプレートがあり、プレートが動いて大きな力が加わり、大地のずれがおき、地震が起きやすい。</p>		

(5) 準備物

- ・資料（1990年～2000年の間に起きたマグニチュード4以上、深さ50km以内の地震）
- ・新防災教育副読本（ワークシート）

年 組 氏名

- 世界の地震発生分布図を見て気付いたことを書きましょう。また、地震が起きている場所の特徴をさがして書いてみよう

考えよう 「仙台の自然災害年表・復興年表」を見て、気付いたことを書こう。

<気付いたこと>

- 大きな地震が起きたときに起こりうる災害を予想しよう。また、身の回りで災害に備えていることをさがしてみよう。

災害	身の回りで行われている対策

<今日の学習を振り返って>

新防災教育副読本（小学校４・５・６年）
「第３章３ いろいろな自然災害」を活用した理科の指導案例

第５学年 理科学習指導案

仙台市立東二番丁小学校
戸村 隆

1 単元名 台風と天気の変化（５年）（実施時期９月～１０月）

2 単元の目標

- 台風の進路と天気の変化について資料を活用して調べ、台風は西から東への天気の変化のしかたとは異なる特有の動きをすることをとらえることができるようにする。
- 台風がもたらす長雨や集中豪雨などの災害について資料を基に調べ、災害に対する備えや情報活用の重要性に気付き、行動できるようにする。

3 単元について

（１）教材について

本単元では、学習指導要領Ｂ生命・地球（４）「１日の雲の様子を観測したり、映像などの情報を活用したりして、雲の動きなどを調べ、天気の変化の仕方についての考え方をもちことができるようにする。」を受けて設定されたものである。また第４学年「Ｂ（３）天気の様子」の学習を踏まえて、「地球」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうちの「地球の表面」にかかわるものであり、天気の変化や台風と降雨との関係について学習する単元である。

児童はこれまで雲の様子や雲の動きを調べて、天気の変化の規則性を学習してきた。この単元では台風の進路や台風のもたらす降雨や災害について、気象情報を活用しながら学習を進める。

また発展として台風以外の大雨や集中豪雨などの自然現象による災害を扱い、児童が安全に生活していくために必要なことを考えさせる展開にしていきたい。

（２）児童について（省略）

（３）指導について

児童が生活経験で得た知識と本単元の学習内容を結びつけていくようにしたい。台風の発生の仕方や進路について大まかな規則性を見出せるように、新聞やインターネット、他の資料を使って考え、まとめさせるようにしたい。

また、新防災教育副読本を活用することで、児童が自然現象のメカニズムを知り、それによる災害についての関心を高め、災害に遭遇したときにはどう対処したらいいのかを考えることができるようにしたい。

単元を通して、防災に対する思考力・判断力を育むために新防災教育副読本を活用する。新防災教育副読本（４・５・６年）の活用をとおして、台風やその他の自然現象を理解させ、それらによって引き起こされる災害が起きそうなきや起こったときに「どのようにしたら自分で自分の身を守ることができるか」を常に意識させるようにしたい。

4 単元の指導計画および評価規準（本時 3/4）

時間	主な学習内容（活動）	指導上の留意点・支援	評価規準（観点）	資料・準備物
1	・台風の特徴をつかむ。	・写真の資料を基に台風について興味を持たせ、台風についての特徴をつかませる。	・台風がどこで発生し、どんな特徴があるか、台風による天気の変化などについて進んで調べようとしている。 (関・意・態)	・台風の写真 ・新防災教育副読本（４・５・６年） ・NHK デジタル教材
1	・写真やその他の資料から、台風の進み方と天気の変化について調べる。	・気象衛星の写真を基に台風の位置をとらえさせ、台風の動きについて考えさせる。また台風と天気の変化についての関係を教科書の資料から調べさせる。	・気象衛星の雲写真を基に台風の位置を地図上に記録し、進路を線でつないでいる。 (技能) ・日本付近の台風の進路や台風は強風や大雨をもたらすことがあることを理解している。 (知・理)	・気象衛星の雲写真 ・台風の月別進路図
1 本時	・台風がもたらす大雨や集中豪雨などが原因の自然現象について知り、災害に遭った場合の対策について考える。	・雨量のデータや災害の写真、浸水・土砂災害ハザードマップを提示し、身近なところでも起こりうる危険について考えさせる。	・雨が原因で起こる自然災害について知り、どんなことに気を付けたら良いかを考え、表現している。 (思考・表現)	・新防災教育副読本（４・５・６年） ・雨量データ（気象庁） ・浸水・土砂災害ハザードマップ
1	・その他の自然現象について知り、災害に遭った場合の対策について考える。	・落雷や竜巻の写真や映像を見せ、それらが引き起こす災害のすごさを意識させる。 ・それぞれの危険について既習事項を活用しながら考えさせるようにする。	・落雷や竜巻などの自然現象がもたらす災害について知り、どんなことに気を付けたら良いかを考え表現している。 (思考・表現)	・新防災教育副読本（４・５・６年） ・気象庁 DVD

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- 雨が原因で引き起こされる自然災害を知り、災害に遭った場合はどんなことに気を付けたら良いかを考えることができる。

(2) 本時の指導に当たって

- 自然現象に関する知識を押さえるために新防災教育副読本を使い、教師が必要な部分を説明する。
- 雨の強さと降り方の表や洪水災害予想図、土砂災害ハザードマップを提示し、児童が災害を身近な問題として捉えられるようにしたい。

(3) 準備物

- ・雨の強さと降り方の表。
- ・洪水災害予想図（拡大図）。
- ・土砂災害ハザードマップ（拡大図）。
- ・冠水・土砂災害時の写真。（テレビで投影）

(4) 指導過程

主な学習活動・内容（○主な発問 ・児童の反応）	・留意点
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○ 雨が原因の自然災害にあったらどんなことに気を付けたらいいのかを考えていきましょう。</div> <p>2 災害をもたらす自然現象について出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○ 台風の他にみんなが知っている自然現象を言ってみよう。</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> ・大雨 ・集中豪雨 ・雷 ・地震 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> ・津波 ・洪水 ・噴火 ・竜巻 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">○ 雨が原因で災害を起こすものはどれかな？</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> ・大雨 ・集中豪雨 ・洪水 </div> <p>3 学習課題を知る。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">雨が原因の災害が起きたらどんなことに気を付けたら良いか。</div>	<p>本時で目指す児童の姿</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">雨が原因の自然災害について知り、災害に遭遇した場合の対策について考えることができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新防災教育副読本（P24）にある解説を読みながら、集中豪雨について知らせる。洪水についても補足する。
<p>4 雨が原因で起きる災害の様子を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">○ 雨がたくさん降るとどんな災害が起きますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・川の水があふれる。・がけ崩れが起きる。・道路に水があふれる。 ・家に水が入ってくる。土砂崩れが起きる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">○ 道路や家に水が入ってくる災害と土地が崩れて起こる災害の大きく2つに分けられます。2つの災害について起こる様子を考えていこう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニュースや新聞で得た情報を基に発言させたい。 ・ 雨による災害は大まかに2つに分けられることを確認させる。 ・ 道路の冠水の写真と土砂崩れの写真を提示し、短時間で降る雨のすごさを感じ取らせたい。 ・ 雨の強さと降り方の表を配り、その表を基に降雨と災害について考えさせる。

○ 仙台市洪水災害予測地図と仙台市土砂災害ハザードマップを見て、どこが被害を受けるか確認しよう。

○ 東二番丁小学校の周りではどんな災害が起きるかな？

- ・道路に水があふれる。
- ・水が家に入ってくる。
- ・地下道に水が入る。

5 雨が原因で起きる災害で気を付けることを出し合う。

○ 雨が原因の災害のときに気を付けることはどんなことでしょうか。

- ・地下に入らない。
- ・川やがけに近づかない。
- ・落ち着いて行動する。
- ・情報を聞く。
- ・避難する。

○ どれも大切ですが、みんなにとって特に大切なことは何でしょうか。

- ・情報をつかんでおく。
- ・避難の準備をする。
- ・普段から災害のための備えをしておく。
- ・通学路や自宅あたりは危険がないかを確認する。
- ・避難のときに家族との連絡する方法を確認する。

5 本時の学習を振り返る。

○ 今日の学習を振り返って、これから心がけたいことを書いてみましょう。

- ・拡大図を提示する。
- ・洪水の場合には広範囲にわたって浸水すること、仙台でも土砂災害が起こる可能性があることを読み取らせる。

- ・土砂災害や洪水は考えにくいですが、道路の冠水や地下道への浸水が予想されることに気づかせたい。

- ・ **新防災教育副読本（P24とP32）** や補助資料を基に考えさせる。

- ・グループになって特に大切にしたいことを話し合わせ、発表させたい。

- ・各自のノートに書かせる。

本時の評価

雨が原因で起こる自然災害が起こったときの自分なりの対策を考え表現することができたか。(思・表)

(5) 板書計画

雨が原因の災害が起きたらどんなことに気を付けたらいいか。

雨が大量に降る→

洪水
浸水
がけ崩れ
土砂崩れ

-
- ・生命の危険。
 - ・生活できなくなる。
 - ・家が壊される。

気を付けること

- ・地下に入らない。
- ・川やがけに近づかない。
- ・落ち着いて行動する。
- ・情報を聞く。
- ・避難する。

まとめ

- ・情報をつかむ。
- ・避難の準備をする。
- ・ふだんから災害を防ぐ準備をしておく。

台風と天気の変化

<災害が起きたら① ワークシート>

名前 ()

☆ 学習の課題

☆ 災害が起きたら気を付けること

特に気を付けたいこと	自分だったらできそうなことは?
①	
②	
③	

新防災教育副読本（小学校４・５・６年）

『第３章４ 災害時の情報手段』を活用した 社会の指導事例

第５学年 社会学習指導案

1 単元名 「情報を生かすわたしたち」（５年） （実施時期 １２月～１月）

2 単元目標

- ・情報化の進展には様々な利点とともに問題点もあることや、生活の中で様々な情報を有効に活用することが大切であり、情報を受け取るだけでなく、送り手としても責任ある行動が望まれることを理解し、日常の生活に生かそうとする。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
情報に囲まれた生活に関心を持ち、その利点や問題点について意欲的に調べるとともに、生活の中でどのように情報を活用していけばよいかについて考え、有効に活用しようとしている。	生活における情報の活用について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、情報を有効に活用するためには情報化の進展の利点と問題点を理解し、責任ある利用のしかたをすることが大切であることを考え、発表したり、表現したりしている。	生活における情報の活用の様子について、各種の資料やインターネットなどを活用して必要な情報を集め、情報化の進展には様々な利点と問題点があることを読み取ってまとめている。	わたしたちを取り巻く情報には、生活に役立つものだけではなく、一方的に送られてくるものや人に不利益を与えるものもあること、情報の活用の仕方を誤ると犯罪被害や他者を傷つけるなどの問題を生じるおそれがあり、責任ある活用が求められることを理解している。

4 教材観

本単元は、学習指導要領の第５学年の内容

（４）我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

に基づいたものである。

今日の社会において、わたしたちはテレビ・新聞・雑誌・電話・インターネットなどの情報伝達手段によって多種多様な情報を得ることができる。これらの情報は生活の向上・充実ばかりでなく、諸産業の発展にとっても大きな役割を果たしている。また、わたしたちが高度情報通信社会において主体的に生きていくには、情報の有用性や役割、情報のもたらす影響について考えるとともに、情報の適切な収集や活用、発信や伝達などの能力を身につけていくことが大切であるとする。

5 児童観 （省略）

6 指導観

新防災教育副読本（小学校４・５・６年）

『第３章４ 災害時の情報手段』を活用した 社会の指導事例

情報をより身近に感じられるように、生活に密着したコマーシャルやコンビニの情報活用などを取り上げて、学習に取り組みさせていく。特に、たくさんの情報伝達手段の中から、最も身近であるテレビのコマーシャルを取り上げることで、情報への興味や関心を高めるだけでなく、自分の体験も想起させることができると思う。さらにはテレビの比較対象として新聞や雑誌なども取り上げ、たくさんの情報に囲まれていることに気付かせていきたい。

さらに、学習のまとめに**新防災教育副読本**を使って、**災害時の情報手段**について考えさせる。東日本大震災では、情報収集、情報伝達的手段としてメディアの大切さが注目された。ここでは、SNSや災害用伝言ダイヤルなど、災害時の情報入手と活用について理解させたい。また、情報を発信する側として震災翌日も新聞を発行し続けた河北新報社を紹介する。編集局長の太田さんの話から、情報を発信する意味を感じ取らせたい。

(本時で行う防災教育の位置付けを明記する)

7 指導計画（4時間扱い）

	本時の問い	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価の規準
つかむ	① 情報に囲まれて わたしたちは、情報とどのようにかかわっていったらいいでしょうか。 (1時間)	○生活の中に溢れている情報についてコマーシャルを例に発表し合う。 ○増えてきている広告の苦情について調べ、情報を活用する方法について話し合い、学習問題を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <学習問題> わたしたちは、どのようにすれば情報をじょうずに生かすことができるでしょうか。 </div>	◆ダイレクトメールの見本や広告を用意し、学習問題が作りやすいように工夫する。	☆<関意態> 生活の中での情報の活用に関心をもち、学習問題をつくって意欲的に調べようとしている。
調べる	② 情報化とわたしたちの生活 わたしたちは、生活の中でどのように情報を活用しているのでしょうか。(1時間)	○わたしたちの生活になくはないものになっている携帯電話について調べ、発表しあう。 ○情報ネットワークを活用した産業の例としてコンビニエンスストアを取り上げ、資料をもとに話し合う。	◆身近な所にある携帯電話やコンビニエンスストアの情報化について自分の経験をもとに発表させる。	☆<知理> 生活に情報を活用することによって、生活が便利になっていることを理解している。
	③ 受け取る情報、発信する情報 情報を活用するうえでどのような問題があるでしょうか。 (1時間)	○情報化の進展によって生じている問題点について資料をもとに調べ、話し合う。 ○わたしたちは、情報を受け取る側だけでなく発信する側にもなることに気づき、どのようなことに気をつけたらよいか考え発表する。	◆情報化の進展による問題点に気付かせることを通して、情報を発信する側、受け取る側二つの立場の視点に立って考えをまとめることができるようにする。	☆<技能> グラフ等の資料から、情報化の進展によって生じている問題点を読み取っている。 ☆<思判表> メディアリテラシーを身に付け責任ある行動をとることの大切さを表現している。

新防災教育副読本（小学校４・５・６年）

『第３章４ 災害時の情報手段』を活用した 社会の指導事例

まとめる	<p>④災害時の情報手段（１時間） ※本時（４／４）</p>	<p>○災害時における情報伝達手段を知り、災害が発生したときに必要な情報とその入手の仕方を考える。</p>	<p>◆新防災教育副読本（４・５・６年用）を資料として、緊急に役立つメディアについて考えさせる。</p>	<p>☆〈思判表〉 災害時に必要な情報を得るために、普段から、どんなことに備えておけばいいか考えることができる。</p>
------	------------------------------------	---	--	--

9 本時の指導

(1) 本時のねらい

○東日本大震災のときの情報についての様子を知り、大きな災害が起こったときに、どのように情報を得ればいいのか、日常からどんなことに気を付けていけばいいのかを考えることができる。

(2) 指導過程

主な学習活動・内容（○主な発問・児童の反応）	・留意点◎評価
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。 T 今日は災害のときに、どのように情報を得て、活用したらいいかを学習します。</p> <p>2 災害時の情報について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○東日本大震災のときに、情報を得るのに困ったことはありませんでしたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話が繋がらなかったと聞いたことがある。 ・停電で、電気が止まったので電話も通じない。 ・インターネットもテレビも見られなかった。 <p>T 情報がうまく利用されず、人々は困っていたのですね。</p> <p>3 災害時の情報入手手段について調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○東日本大震災が起きたとき、おうちの人や避難所ではどんな情報をほしがっていましたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・家族は無事か ・津波は来ないか。 ・ほかの地域はどうなっているのか。 ・電気やガスはいつ直るのか <p>T 新防災教育副読本の P26 の①「東日本大震災の発生直後に人々が求めた情報」を読んでどんなことが、分かりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の無事を確かめたいことが願い。 ・電話が繋がらなかった。 ・情報を伝える手段は、口伝え・張り紙・直接訪ねるなど。 <p>T 大きな地震が起こると、「ライフライン」と呼ばれる生活に必要な施設などが使えなくなります。避難生活で困ったことは、「食料の調達」「給水」「電気の復旧」「交通」などの情報がなかなか手に</p>	<p style="text-align: center;">本時で目指す児童の姿</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>大きな災害が起こったときに、どのように情報を得ればいいのか、日常からどんなことに気を付けられるのかを考慮することができる児童</p> </div> <p style="text-align: center;">新防災教育副読本のキーワード、情報の入手・活用を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に家族に取材をさせておく方法も考えられる。 ・地震発生直後と時間がたったあとで考えさせる。

新防災教育副読本（小学校４・５・６年）

『第３章４ 災害時の情報手段』を活用した 社会の指導事例

入らなかったことでした。ライフラインが復旧するまで、２週間から１か月程度かかると言われています。

○新防災教育副読本 P26 の「災害に関する情報は主にどこから入手していましたか？」を示す表から、どんなことが分かるでしょうか。

- ・ラジオが一番多い。
- ・ラジオは、持ち運びできるので、避難所でも聞ける。
- ・テレビや携帯電話は、電気が復旧してからでないと使えない。

T 実際は、どうだったのか、新防災教育副読本 P26②「避難生活と情報の入手」から見てみましょう。

- ・ラジオは、持ち運びができ、電池があれば聞ける。
- ・SNSを利用する人が増えた。
- ・災害伝言ダイヤル（171）も利用できる。

4 情報を発信する側の思いを知り、正確な情報を伝える大切さについて考える。

○河北新報社の方は、どのような思いで新聞を発行し続けたのでしょうか。新防災教育副読本 P27「伝え続けるということ」を読んでみましょう。

- ・情報を待っている人がいるという思い。
- ・情報を途切れることなく伝えたい。

5 災害時における情報の活用方法を考える。

○災害時に必要な情報を得るために、普段から、どんなことに備えておけばいいでしょうか。ワークシートに書きましょう。

- ・家族の無事の確認方法をお互いに確認しておく。
- ・災害が起こったときの行動を家族で確かめておく。
- ・停電に備えて、電池などを備えておく。
- ・ラジオをいつも使える状態にしておく。
- ・SNSや伝言ダイヤルなどの使い方などを確かめておく。
- ・どんなときに、どんな情報が必要になるか考えておく。
- ・地域の情報はどこで手に入るか調べておく。

6 本時の学習を振り返る。

T. 今日の勉強で考えたことやこれから心がけたいこと等を書きましょう。

- ・新防災教育副読本 P26 の表を拡大して黒板に掲示する。
- ・避難生活は、自宅の場合と避難所などの場合があることを考慮させる。
- ・必要に応じて SNS や災害伝言ダイヤルについて説明を加える。
- ※そのほか、携帯電話各社から災害伝言板サービスも提供されている。

・情報を発信する側、情報を受信する側のそれぞれ立場の思いや在り方について考えさせる。

・河北新報の様子は、「河北新報のいちばん長い日 震災下の地元紙」（文藝春秋 2011）に紹介されている。

・発生直後と避難生活での情報の入手について考えさせる。

・場面によっては、自分も情報を発信する側になることに気付かせる。

◎ 本時の評価

☆<思判表>

災害時に必要な情報を得るために、普段から、どんなことに備えておけばいいか考えることができる。

新防災教育副読本（小学校４・５・６年）

『第３章４ 災害時の情報手段』を活用した 社会の指導事例

（３）板書計画

災害時の情報手段について考えよう

東日本大震災直後、どんな情報が必要だったか。

- ・家族は無事か
- ・津波は来ないか。
- ・ほかの地域はどうなっているのか。
- ・電気やガスはいつ直るのか

新防災教育副
読本 P27 の表

- ・ラジオが一番多い
- ・ラジオは持ち運びできる
- ・テレビや携帯電話は停電では
使えない

災害時に必要な情報を得るために、普段から、どんなことに備えておけばいいか。

- ・災害が起こったときの行動を家族で確かめておく。
- ・ラジオをいつも使える状態にしておく。
- ・どんなときに、どんな情報が必要になるか考えておく。

（４）準備物等・ワークシート

- ・新防災教育副読本（小学校４・５・６年）P26の表を拡大したもの
- ・新防災教育副読本ワークシート（別紙）

※東日本大震災時の河北新報の号外の画像などを用意できると更によい。

5年 組 氏名

- 1 東日本大震災の時に、人々が必要とした情報はどのようなものだったのでしょうか。

<発生直後>

<時間がたった後>

- 2 P26「災害に関する情報の入手方法」の表からどんなことが分かりますか。



- 3 災害時に必要な情報を得るために、普段からどんなことを備えておけばいいでしょうか。



- 4 今日の勉強を振り返って(今日の勉強で考えたことやこれから心がけたいことを書いてみましょう。)



新防災教育副読本（小学校４・５・６年）
「第５章２ 人々をつなげる活動」を活用した社会の指導案例

第４学年 社会学習指導案

仙台市立南光台東小学校
 斎藤 栄子

1 単元名 暮らしを守る 火事がおきたら（４年） 実施時期 ５月

2 単元の目標

- 火災や自然災害などから暮らしを守る取り組み方を調べ、人々が安心して生活が送れるようにするための関係機関の働きとそこで働く人々の工夫や努力を知る。
- 地域社会における災害の防止について、見学したり、調査をしたりし資料活用をしたりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々地域の人々の工夫や努力を考える。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
地域社会における火災から人々の安全を守る工夫や努力に関心を持ち、見学や調査活動を通して安全を守る体制や施設、訓練。点検の様子について意欲的に調べている。	地域社会における火災から人々の安全を守る工夫や努力について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、防災の仕事に携わる人々の工夫や努力について考え、表現している。	消防署や消防施設・設備、地域の人々の協力の様子について調べたことを具体的に分かりやすく整理している。	消防署などの関係機関は地域の人々と協力して火災の防止に努めていること、関係の諸機関が相互に連携して緊急に対処している体制をとっていること、火災から人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解している。

4 単元について

(1) 教材について

本単元は、本単元は、学習指導要領の第５学年の内容

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

に基づいたものである。

関係機関は地域の人々と協力して災害や事故防止に努めていることや関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを学習の内容としている。東日本大震災と関連付けて学習を展開させる。

(2) 指導について

導入に、東日本大震災での様子を取り上げ、自分たちの安全を守るために、自分たちの市だけではなく多くの地域や関係機関に支援してもらったこと知らせる。

この学習では、特に、災害の中でも火災を取り上げる。消防署を中心とし、警察署、病院などがそれぞれの施設の整備や点検、訓練、広報活動などに取り組み、火災の予防や発生時に対する備えをしていること、及び火災発生の緊急事態において関係諸機関が相互に連絡を取り合い、消火や救助に当たるなどの対処をしていることを学習する。調べ学習では、消防署の見学や校内、学区内の消防設備、地域の防災の取組など、身近なことから自分たちを災害から守る取組について調べ、自分たちにできることを考えさせていく。

〈本時で行う防災教育の位置付け〉

「くらしを守る」仕事にはどんな仕事があるのか、新防災教育副読本を活用して考えさせる。東日本大震災での活動を通して、自分たちにとって身近な消防、警察などの仕事は自分たちの地域にだけにとどまらず、日本中とつながっていることを理解させる。

5 単元の指導計画とおよび評価規準

時間	主な学習内容（活動）	指導上の留意点・支援	評価規準	資料
1 本時	導入 ・災害や事故によって引き起こされる様々な事態を想起させ、安全なくらしを守る人々の働きについて関心を高めていく。	・新防災教育副読本を使用して、災害が起こったときには、どんな人々がどんな仕事をしたのか、考えさせる。	〈関意態〉東日本大震災を想起して、どんな人々が働いたか進んで考えようとしている。	新防災教育副読本 写真
1	学習問題の設定 ・避難訓練の機会を利用し、消防士や消防車や消防の仕事について考えさせ、見学の計画を立てる。	・避難訓練の機会を活用して、災害を防ぐ仕事の中から、消防署の仕事について興味を持たせる。 ・見学の視点を立て、それに基づいて、疑問カードを作成させる。	〈関意態〉消防の仕事に興味を持ち、疑問カードづくりに取り組んでいる。	カード
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>〈学習問題〉 火事から私たちのくらしを守り、また火事を起こさないために、どんな人がどんなはたらきをしているのでしょうか。</p> </div>				
2	消防署の見学 ・消防署を見学し、消防自動車の秘密や仕事の進め方などについて見学計画を基に調べる。	・疑問カード基に、視点の中で、特に興味を感じたところを重点的に調べたり、質問したりさせる。	〈技能〉見学の意義を理解し、カードにしたがってインタビューしたこと、分かったことをメモしている。	ワークシート
1	火事の現場で働く人 ・火事の現場では、消防士のほかにどんな人が働いているのか調べる。	・様々な人々が消火・救出活動に協力をしていることに気付かせる。	〈技能〉資料から火災現場には消防士以外にも働く人がいることや、どんな働きをしているか読み取って	

			いる。	
1	火事がおきたら ・119番に電話をかけると、どこにつながり、どこに連絡がいくのかを調べる。	・119番通報後、どこに連絡がいくのか予想させる。	〈知理〉関係機関が相互に連携して火事に対処する体制をとっていることを理解している。	
2	まちの消防しせつを探そう ・地域で消防施設を調べ、見つけたことをマップや写真等を使って伝え合い、消火栓の配置の工夫などを考える。	・地域を手分けして、消火栓や消火器、消防団の倉庫などがどこにあるか調べ、一つのマップにまとめさせる。	〈思判表〉消防施設の配備の工夫について考え、安全を守るために計画的に配備されていることを表現している。	写真 マップ
1	地いきの協力 ・消防団や地域の人々の取組にはどのようなものがあるか調べる。	・消防団で活躍している人に目を向けさせたり、自分にできることを考えさせたりする。	〈関意態〉地域の安全を守る諸活動が地域の人々や地域社会相互の協力によって進められていることに気付いている。	消防団 の資料

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- 東日本大震災が発生したときの様々な支援について知り、安全な暮らしを守る人々の働きについて関心を高める。

(2) 本時の指導にあたって

- 東日本大震災が発生したあと、様々な人々が被災地のために働いたことを理解させ、どんな仕事内容だったのか考えさせたい。
- 様々な地域や関係機関が自分たちの暮らしを守っていることを理解させ、震災以外にもどのような人々が、自分たちの生活を守っているか単元を通してのめあてを持たせる。

(3) 指導過程

主な学習活動・内容（○主な発問・児童の反応）	・留意点
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>○ 今日、東日本大震災では、どんな人々が支援してくれたかを学習します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>東日本大震災が発生したとき、どんな人々がどんな活動をしていたのでしょうか。</p> </div>	
<p>2 新防災教育副読本50ページの写真を見て、どんな人々がどんな活動をしていたか考える。</p> <p>【どんな人々】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察 ・ 消防 ・ 消防 ・ 自衛隊 ・ 行政 ・地域の人々 <p>【どんな活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導 ・ 救助活動 ・ 避難所運営 ・ライフラインの復旧（ガス・水道・電気） 	<ul style="list-style-type: none"> ・救命、救助、復旧、復興、支援等様々な取組を行っていることに着目させる。 ※次時の学習につなげるために、消防の活動について、写真や補助資料などで紹介することも考えられる。

3 相互支援協定や日本赤十字の活動について知る。

○ 全国から支援に来てくれたのはどうしてでしょうか。

- ・仙台の人だけでは足りないから。
- ・たくさんの応援があったほうが早く工事ができるから。
- ・前に仙台の人に助けてもらったから。

○ どこから、どんな支援に来てくれたか確かめてみましょう。

- ・北海道から九州までたくさんの都市がある。
- ・阪神大震災のあった神戸からも来てくれている。
- ・医療や必要な物資の援助をしてくれた。

○ **新防災教育副読本 51 ページの日本赤十字社, JRC (青少年赤十字活動)** の活動について確かめてみましょう。

- ・医療支援や救援物資を届けてくれた。
- ・青少年赤十字のメンバーも支援活動をしていた。

4 単元のめあてを立てる。

○ 今日、学習した地震以外で、私たちの周りには安全でないことは、どんなことがあるのでしょうか。

- ・交通事故
- ・火事
- ・台風
- ・大雨
- ・土砂崩れ

○ 今日の学習を振り返って、わたしたちの暮らしを守ってくれる仕事は、どんなものがあるのかを調べてみたいことを書いてみましょう。

・「20 大都市災害時相互応援に関する協定」に加入している各都市を紹介する。

※相互支援（応援）協定とは、広域的な災害対策を効率的に展開することを目的としている。

・**新防災教育副読本の 51 ページ**を見て、日本赤十字社や JRC の活動について知るとともに、スタッフの思いについても考えさせる

・地震以外でもわたしたちの生活を守ってくれていることに気付かせ、その仕事について調べてみたいという意欲を持たせる。

震災以外でも、わたしたちの暮らしを守るために、まちではどこでどのような人たち働いているのでしょうか。

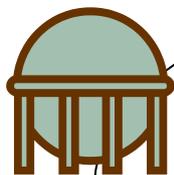
2 人々をつなげる活動 P50-51 学習シート

年 組 名 前

◎ 震災が発生したときに、いろいろな人たちが、たくさんの救助活動や支援活動を行いました。どのような取り組みが行われていたのかをふり返り、自分たちにもどんな取り組みができるかを考えてみましょう。

○震災が発生したとき、下の機関や団体が、どのような活動を行っていましたか。

仙台市、水道局、ガス局、交通局



自衛隊

警察・消防署



○わたしたちの暮らしを守ってくれる仕事にはどんなものがあるか、調べてみたいことを書いてみよう。

その他の団体・NPOなど

新聞記事の効果的活用

<p>学校名 七郷小学校 氏名 亀崎 英治</p> <p>小 学校 4・5・6 年版 単元名 復興へ今を力強く P 12～13</p> <p>教科・領域名 6年・総合的な学習の時間 時間 45分</p>	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>1 震災で発生した課題を話し合う。</p> <p>震災によってどんな問題が出てきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波によるがれきを処理しなければならない。 家を失った人たちは、今も仮設住宅に暮らしている。 塩害、放射能の汚染問題、風評被害など <p>2 復興に向けた仙台市の取組を知る。</p> <p>復興に向けて仙台市はどんな取組をしているのでしょうか。</p> <p>(1) 震災がれきの処理</p> <ul style="list-style-type: none"> がれき置き場と焼却場を建設して処理を進めた。 がれきの処理が予定よりもはやく終わった。 がれきの多くがリサイクルされる。 <p>(2) 住まいの確保と移転</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所生活から応急仮設住宅(プレハブ・借り上げ)での生活になった。今も続いている。 復興公営住宅や集団移転住宅の建設が始まった。 仮設住宅に住む人たちの声を聞きながら進めている。 <p>3 被災者の願いを生かした町づくりを考える。</p> <p>仮設住宅の人たちは、どんな願いを持っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 早く仮設住宅から出て、元の生活を取り戻したい。 以前の場所に戻りたいけれど、移転対象地区になっていて、家を建てることができなくなりました。 親しい人たちとともに、同じところに移転したい。 いろいろと免除されるが、それでもお金がかかってしまう。 <p>河北新報データベースを活用し、新聞記事を補助資料として使用した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4年総合ではなく、第2章3「未来へつなぐ」とセットの教材として6年総合で扱った。 地震と津波によってどんな被害が生じ、今も続いているかを考えさせた。 副読本を読んだ後、新聞記事や写真を補助資料として提示して今の状況を把握させた。 (1) 仙台市のがれき処理完了の新聞記事 (2) 復興公営住宅の写真 (3) 移転対象区域図(仙台市復興事業局資料)  <p>仙台市荒井の復興公営住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮設住民の方々が製作した「復興かえる」を提示して、ふるさとの再建に向けて歩み出した人たちの思いを想像させた。 副読本を読んだ後、新聞記事を補助資料として提示した。 (4) 集団移転の意向調査の新聞記事 (5) 被災者の声の新聞記事 被災者の声を聞き入れながら復興公営住宅等の建設が進められている一方で、移転場所や資金などの課題もあることに気付かせるようにした。 「自分たちのこれからの生活のあり方」の代わりに、「被災者の思いを取り入れた町づくりの必要性」を確認した。

全校集会と結び付けた取組

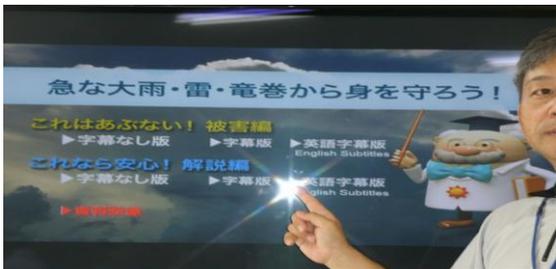
学校名 茂庭台小学校 氏名 佐竹 朋子 小 学校 4・5・6 年版 単元名 第2章 4 立ち上がれ！ぼくらの復興プロジェクト P16～17 第4章 3 災害に備える P34～35 第4章 4 家族防災会議を開こう P36～37 教科・領域名 学級活動・児童会活動 時間90分	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災当時のことを振り返り、自助・共助の大切さを理解させる。 災害時に家族や地域のためにできることを考えさせる。 <p>1 全校集会「3.11 から未来へ IN茂庭台 ～災害時に自分たちができること～」の目的を知る。</p> <p>2 復興プロジェクトの意義について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>私たちが取り組んでいる復興プロジェクトは、何のために行っているのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 被害にあった人に、少しでも明るい気持ちになってほしいから。 地域を元気にするため。 <p>3 家庭でできることについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>家庭で自分ができることを考えてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 非常用持出しぶくろの消費期限の確認。 避難場所の確認。 <p>4 地域のためにできることについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地域のため、他の人のためにできることはないか、考えてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 避難所での小さい子どものお世話。大人は忙しいので、一緒に遊んであげる。 給水車など、並んで受け取ることが多いので、お年寄りは大変。代わりに受け取って届ける。 中学生は、避難所のトイレの水をプールから運んでいた。自分にもできそう。 子供会の仲間と相談して、子どもでもできる仕事を分担する。そのまとめ役を高学年が引き受ける。 	<p>【9月11日(水)「防災を考える日」の予定】</p> <p>朝 ごみ広い活動、あいさつ運動</p> <p>1校時 4～6年 学活 ビデオ視聴他 ※「地震 あなたにできること」20分 (ビデオはメディアテークから借用)</p> <p>2校時 4～6年 道徳 「命に関すること」</p> <p>3校時 休憩時避難訓練 (予告なし)</p> <p>4校時 全校集会 児童会活動 「災害時に自分たちができること」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自校の活動だけでなく、副読本P17のような活動の紹介や、代表児童が参加した復興プロジェクトについての紹介を行った。 非常用持出し袋についての話題が出たので、その中身についてグループごとに話し合いを行い、発表した。 各家庭の常備品についても、種類や保管方法などを紹介し合った。 <p>【4年児童作文】「災害時から学んだこと」</p> <p>東日本大震災から2つ学んだことがあります。1つ目は助け合いです。電気や水やガスが使えなくなりました。学校に給水車が来たとき、前の人たちが僕を見て水をもらう量を減らしていました。僕にたくさん水をくれたのがうれしかったです。2つ目は、思いやりです。震災の日の夜に外で声をかけてくれ、とてもうれしく励まされました。次は僕が励ますことができるようにしたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> クラスで話し合ったことを、児童主体の全校集会の中で発表した。集会には、地域の方(学校関係者評価委員)や保護者の方にも参加していただき、提案についての意見、要望、期待などを盛り込んだ内容のお話をしていた。
 	

全校集会と結び付けた取組

すばやく行動 ← 頭 → お家の人や先生の話を聞く

- 個人 → 身を守る. 正しい情報を得る (放送)
- 家庭 → 集合場所を決める
- 地域 → 周りへの気配り (声をかける) ← 地域の人から助けられた
- 笑顔TあいさつT ⇒ 助け合う **正** 自分の命
- カイ工事 (そうじ. たきだし) 給水所で
- けがの手当て 水運び 分けられた
- 家 → 高い所に物を置かない 家族にも教える
たばこせりし. 固定する ↓ 役に立ちたい
- 思いやりの心 → 声をかける
はげます ⇒ 次は自分から! 助けたい!

DVD の効果的な活用

<p>学校名 東二番丁小学校 小学校 4・5・6 年版</p>	<p>氏名 戸村 隆 単元名 いろいろな自然災害 P 24～25 教科・領域名 理科 時間 45分</p>
<p>主な学習活動（実際に行った活動・児童の反応）</p> <p>ねらい 地震や津波以外のいろいろな自然災害の特徴を学び、それぞれの災害に遭遇したときの的確な判断や行動の仕方について考える。</p> <p>1 学習課題を知る。</p> <div data-bbox="193 555 746 667" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地震や津波以外の自然災害にはどんなものがあるでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・台風 ・大雨（集中豪雨） ・雷 ・火山の噴火 ・洪水 ・竜巻 ・土砂崩れ・増水 ・雹（ひょう） <p>2 それぞれの災害の特徴や被害について知る。</p> <div data-bbox="193 808 775 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みんなが出してくれた災害の中で、台風と集中豪雨はどんな被害をもたらすでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・風が吹いて家を吹き飛ばす。・大雨が降り、洪水になる。・土砂崩れが起きて、家がつぶされる。 <div data-bbox="193 1021 775 1126" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>台風と集中豪雨になったらどんなことに気を付けたらいいでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対に外に出ない。・避難方法や準備物を確認する。 ・ニュースを聞く。・家を頑丈にする。 <div data-bbox="193 1227 775 1332" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>他の2つの災害で雷や竜巻はどんな被害をもたらすでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・雷は落雷。木や家に落ちることもある。・感電してしまう。 ・竜巻は家を吹き飛ばす。・屋根を吹き飛ばす。・風力でいろいろなものを持っていく。 <div data-bbox="193 1496 775 1601" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>雷と竜巻にあったらどんなことに気を付けたらいいでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・雷のときには木に近づかない。低い姿勢になる。 ・竜巻は頑丈な家に避難する。窓ガラスのそばに近づかない。 <p>3 対策をまとめる。</p> <div data-bbox="193 1787 775 1892" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4つの災害で共通してみんなができることはどんなことでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・外に出ない。・ニュースをしっかり聞く。・避難の準備をしておく。・頑丈な家にいる。 	<p>指導の実際</p> <p>（準備物）パソコン・気象庁編DVD・ワークシート・新防災副読本</p> <div data-bbox="850 465 1406 779" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: right;">気象庁DVDから</p> </div> <p>※副読本P 24ページを見せた。併せて5年の教科書も資料として見せた。2つの資料から台風や豪雨にイメージを持つには有効であった。先の台風18号のニュースで見た児童もいたので、真剣に話合いがなされた。</p> <p>※ワークシートに書かせる。</p> <p>※雲の状態を確かめるために気象庁のDVD「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう」にある「積乱雲」を視聴させた。</p> <div data-bbox="919 1182 1394 1413" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: right;">積乱雲の作り方</p> </div> <p>※副読本P 25を見せた。併せて竜巻の状況を知らせるために気象庁DVDの「資料映像：竜巻」も見せた。児童は迫力ある映像に圧倒されていた。</p> <p>※気象庁DVD「これなら安心！解説編」のビデオを視聴し、災害の対応策を考えさせワークシートにまとめさせた。映像は具体的で分かりやすかった。</p> <p>※自分の身を守るための「資料」として副読本のP 32～33も活用可能。（反省点）</p> <p>※他にも出された意見・・・「必ずテレビやラジオを聴く。」「家の中の安全な場所を探す。」</p>

DVD・HP の映像の効果的活用

<p>学校名 黒松小学校 小学校4・5・6年版</p>	<p>氏名 村瀬 純子 単元名 地震を乗り越えようとした先人の知恵 P46～47 教科・領域名 総合 時間 45分</p>	
<p>主な学習活動 (実際に行った活動)</p>	<p>指導の実際</p>	
<p>【ねらい】 歴史的な遺産や地名などから、地震を乗り越えようとした先人の知恵や願いに気付かせる。</p> <p>1 宮城県が何度も大きな地震の被害にあってきたことを知る。 ・防災教材「勇気を持って」(P24～25)から日本列島では世界の地震の約10%が発生していること、副読本(P62～63)の年表から江戸時代以降宮城県で18回M7以上の地震が起きていることに気付く。</p> <div data-bbox="223 817 813 952" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>むかしの人々が地震を乗り越えようとした知恵や被害の大きさを後の世に伝えようとしたメッセージを見つけよう。</p> </div> <p>2 度重なる地震と戦ってきた仙台城の石垣について考える。 (1) 古い石垣が残っていた理由を考える。</p> <div data-bbox="223 1097 813 1142" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どうして古い石垣が残っていたのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの石垣の上に新しい石垣を作ればさらに頑丈になるから。 ・古い石も再利用することでより強い石垣になる。 <p>(2) 副読本のP46を読み、東日本大震災による仙台城の被害について知る。</p> <p>3 地震を乗り越えようとした先人の知恵を考える。 (1) 蛸薬師の名前の由来について知る。(副読本P47) ※浪分神社の資料(副読本 中学校 P33)の活用 (2) 年表から「言い伝え」をさがす。(副読本P62-63) (3) 先人たちの思いを考える。</p> <div data-bbox="223 1612 813 1713" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どうしてこのようなメッセージを残したのか先人たちの思いを考えてみよう。</p> </div> <p>4 これからの学習について話し合う。 ・過去に仙台地方で起こった災害の様子を伝えるものをもっと調べたい。 ・わたしたちも東日本大震災のことを未来に向けてどのようにメッセージを残していきたいか考えたい。</p>	<p>【準備物】副読本・PC・テレビ・防災教材「勇気を持って」(読売テレビ放送制作)・仙台城の石垣の写真(現在・内部・被災時)</p>  <p>○現在の石垣の写真を見せ、内部がどうなっていると思うか考えさせた。過去の地震で何度も崩れていることを副読本P62～63の年表でつかませ、どのように乗り越えてきたのかメッセージが残されていることを伝えた。</p> <p>○仙台市教育委員会文化財課のHPの映像をテレビ画面で見せ、内部に古い石垣が残っていることを確かめた。</p> <div data-bbox="853 1388 1444 1915" style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>【先人たちの思い】(児童の考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう二度と誰も犠牲にならないようにここまで津波がきたことが分かるように後世の人たちに伝えたくて地名を付けたのだと思う。 ・未来の人々の被害を少しでも減らし、安全で安心な生活をしてほしいという願いが込められていると思う。 ・繰り返し地震がやってくることは避けられない。だからこそ被害を少なくしていく努力をしながら、一日一日を大切に生きてほしいということを伝えたかったのだと思う。 </div> <p>○先人の思いを受け取り、自分たちも未来に向けてやれることがないか考えさせた。</p>	

補助資料の工夫

<p>学校名 長町小学校 氏名 中田 直子</p> <p>小学校 4・5・6年版 単元名 取り組もう！ボランティア活動 P 52～53</p> <p>教科・領域名 総合的な学習の時間 時間 45 分</p>	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>1 震災時の事をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の体験をふり返る。 地域のお年寄りの話を聞く。 <p>2 仙台市の震災時のボランティア活動について理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎仙台市の震災時のボランティア活動について、副読本を読んで初めて知ったことや心に残ったことを発表しましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 副読本 p 52 紫色の部分を読む。 <p>〈参加した人〉 被災した人, 他県の人</p> <p>〈参加した人の思い〉 人々の役に立てれば 土曜, 日曜, 休日 食料や寝る場所など全て準備</p> <p>〈活動した内容〉 がれきの処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアの活動例の表や写真を見る。 <p>3 ボランティアに参加した人の思いについて知り, ボランティア活動を行う際どんなことに気を付けなければいけないか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> VTR 1 を視聴する。(学生ボランティアの体験談) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎ボランティア活動を行う時, どんなことに気を付けなければいけないか考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の考えを書く。 <p>4 私たちにできるボランティア活動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 震災時の事を振り返り, 助けてもらったり, 誰かのお手伝いをしたりした体験を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎同じような災害が起こった時, あなたはどんなボランティア活動ができると思いますか。考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の考えを書く。 <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習してよかったことや感想などをワークシートに書く。 	<p>教師の思い</p> <p>ボランティア活動は特別な人が行うものではなく, 身近な人に対して自分にできることから始めることの大切さを捉えさせ, 実践意欲を喚起したい。</p> <p>指導のポイント</p> <p>①総合で福祉について学習した後で行った。</p> <p>②児童の体験をできるだけ取り入れた。 事前にアンケートを行い, それをもとに発表させた。</p> <p>③補助資料の工夫を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域のお年寄りの体験談 震災の時に困ったことや近所の人に助けられたことなどについて, 話してもらったことをまとめて, 教師が話して聞かせた。 ボランティアの活動例の表と写真 児童にもできそうなものを特に取り上げた。 高校生ボランティアの体験談 VTR 失敗談やそこから学んだこと, 人の役に立つ喜びなどについて話してもらった。 <p>④ワークシートの改善を行った。 学習活動 4 で自分にできるボランティア活動について考える際, 活動場所を指定して(避難所・近所・地域)考えさせ, その活動をしたいと思った理由も書かせた。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">児童の記述から</p> <p>避難所 小さい子に絵本の読み聞かせをする。 少しでも楽しい気持ちにさせたいから。</p> <p>近所 お年寄りの方に元気にあいさつし, 困っていることがあったら家に行って手伝う。 お年寄りの方は足が悪かったりして大変だから手伝ってあげたい。</p> <p>地域 みんなで集まって交流会をする。 災害でなくなってしまった笑顔を取り戻して, 明るい地域に戻りたいから。</p> </div>